

総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員			
ナンバリング：G11A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 戸板女子短期大学の歴史を理解する。また、実社会で即戦力となるためにセルフプロモーション力を豊かにし、共に気持ちよく過ごすためのマナーも合わせて身につける。さらに産官学連携の演習を通してビジネスの視点を身につける。これら大学生としての学びの基盤を形成することで、本学の学生として必要な教養と実践力の基盤作りをする。 (授業目標) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち、他者と関わることができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：本学の歴史・教育理念を理解する。 E：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。
授業計画	<p>1 戸板ゼミ概要 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス 避難訓練</p> <p>2 マナー・身体表現（1） マナー（1）◎D（ゲスト講師） ①授業の目的と目標、マナーの基本となる応対5原則 ②挨拶の極意（正しい姿勢、綺麗なお辞儀の基本形を練習） ③スマイルトレーニング 身体表現（1）◎C（ゲスト講師） コミュニケーションにおける表現力を高めるための演習（グループ・ワーク）</p> <p>3 マナー・身体表現（2） マナー（2）◎D（ゲスト講師） ①洗練された立ち居振る舞いロールプレイ（立ち姿勢・椅子の座り方・物の授受等） ②ウォーキングの演習 身体表現（2）◎C（ゲスト講師） 対応能力を高めて発想力を豊かにするための演習（グループ・ワーク）</p> <p>4 マナー・身体表現（3） マナー（3）◎D（ゲスト講師） ①信頼される話し方トレーニング（滑舌法・スピード・イントネーション・間の取り方） ②婉曲表現を使って会話ができるようになるための演習 ③きき方5ポイントを覚え、積極的に聞く姿勢を身につける演習 ④共感しながら楽しい会話を続けるロールプレイ 身体表現（3）◎C（ゲスト講師） 集団行動における表現力を高めるための演習（グループ・ワーク）</p> <p>5 マナー・身体表現（1） マナー（1）◎C（ゲスト講師） ①授業の目的と目標、マナーの基本となる応対5原則 ②挨拶の極意（正しい姿勢、綺麗なお辞儀の基本形を練習） ③スマイルトレーニング 身体表現（1）◎D（ゲスト講師） コミュニケーションにおける表現力を高めるための演習（グループ・ワーク）</p> <p>6 マナー・身体表現（2） マナー（2）◎C（ゲスト講師） ①洗練された立ち居振る舞いロールプレイ（立ち姿勢・椅子の座り方・物の授受等） ②ウォーキングの演習 身体表現（2）◎D（ゲスト講師） 対応能力を高めて発想力を豊かにするための演習（グループ・ワーク）</p> <p>7 マナー・身体表現（3） マナー（3）◎C（ゲスト講師） ①信頼される話し方トレーニング（滑舌法・スピード・イントネーション・間の取り方） ②婉曲表現を使って会話ができるようになるための演習 ③きき方5ポイントを覚え、積極的に聞く姿勢を身につける演習 ④共感しながら楽しい会話を続けるロールプレイ 身体表現（3）◎D（ゲスト講師） 集団行動における表現力を高めるための演習（グループ・ワーク）</p> <p>8 特別講演 特別講演 法律教育（ゲスト講師） 事例で知る働くことの基本ルール</p> <p>9 産学連携授業1（PC使用） 産学連携の取り組み方について理解する（総合教養教員他担当者） 企業の課題を知る グループワーク：テーマについて自由トークをする</p>

	<p>10 <宿題>分析項目に対する調査 産学連携授業2 (PC使用) グループワーク：調べてきた情報を、グループで報告し、意見交換を行う 他者からの意見を参考に、自分の情報をさらに深掘する (総合教養教員他担当者)</p> <p>11 産学連携授業3 (PC使用) 自分データシートの作成 フォームへの情報入力 発表に向けての練習 (総合教養教員他担当者)</p> <p>12 産学連携授業4 (PC使用) 予選 各個人で、企業のテーマに関する調査情報を発表する※全員発表 予選 他者の発表について評価を行う (総合教養教員他担当者)</p> <p>13 特別講演 特別講演 防犯教育 (ゲスト講師)</p> <p>14 産学連携授業5 (プレゼンテーション) (PC使用) 決勝 予選を通過した者はプレゼンテーションを行う (企業も参加予定) (総合教養教員他担当者) 他者の発表について評価を行う 企業の知りたいポイントを理解する</p> <p>15 戸板ゼミナール振り返り 戸板ゼミナール活動記録の完成 (総合教養教員他担当者) 夏休み期間の就活へのアプローチ (各学科教員)</p>
学習成果・ 到達目標・基準	<p>◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。 B：自分の役割を果たす努力をしながらグループワークに参加することができる。 ○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。 D：本学の教育理念を簡単に説明することができる。 E：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度) 事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度)</p>
指導方法	<p>各分野の専門家を招き、実際に身体を動かしながら学びを深める。 フィードバックの仕方：各プログラムにより担当教員、ゲスト講師や連携企業からのフィードバックのほか、必要に応じて個別にコメントする。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>A：課題、授業への貢献度を評価する。 B：課題、授業への貢献度を評価する。 C：課題、授業への貢献度を評価する。 D：課題によって評価する。 E：課題、授業への貢献度を評価する。 授業への貢献度50%、課題50%</p>
テキスト	<p>適宜必要なプリント等の資料を配布する。</p>
参考書	<p>総合教養センターが推薦している図書 (図書館及び総合教養センターに設置)、ゲスト講師推薦の図書</p>
履修上の注意	<p>学科・クラス・学籍番号によってスケジュールや受講教室などが異なることが多いため、毎回の連絡事項を各自でよく確認し、まちがえることのないよう出席すること。</p>
アクティブ・ラー ニング	<p>グループワーク、プレゼンテーション</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
村木桂子、江原数彦			
ナンバリング：G11A02			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目への学びや、社会人としての礎を築く学びに共通に必要なアカデミック・スキルを養う科目である。特に、協働学習の土台となる「チームビルディング」のためのトレーニングや、チームメンバーに向けて「意見を発信し、集められた意見を検討する」トレーニングを行う。さらに、意見発信や検討に必要な「語彙」や情報伝達のための「文章表現」の仕方も学び、物事を論理的に捉え考える力を養う。 (授業目標) ○A：協働を通して仲間の存在を尊重し、言葉や行動を通して自己の役割を理解できる ○C：テーマに対して自己の意見を発信したり、他者の意見と比較したりしながら、総合的に再考できる
授業計画	1 ①A③グループ【オンデマンド】②D④グループ【オンデマンド】授業の目的と学び方について ①人はなぜ、学ぶのか？ ②あなたはなぜ、戸板で学ぶのか？ ③戸板での学習方法／課題の対処方法／ノートテイキング／毎回実践するマナー 2 ③D④グループ【オンデマンド】ビジネスとは何か ①A③グループ【対面】情報と意見提示の仕方 ②D④グループ【オンデマンド】 ①ビジネス・会社とは何か ②経済とは何か（あなたの毎日を振り返る） ③世界の中の日本の役割 ①A③【対面】 ①情報を持ち寄り、合わせる練習（話し言葉のみ） ②テーマに対する意見を提示する練習（付箋を使う） ③意見を照合し、グルーピングをする練習（付箋を使う） ④意見グループのタイトル付（意見の抽象化） 3 ①A③グループ【オンデマンド】意見の抽象化・チーム内における意見の構造を探る ②D④グループ【対面】情報と意見提示の仕方 ①A③【オンデマンド】 ①既出意見のグループ分け練習（Googleスライド使用） ②グループ化された意見にタイトルを付ける練習 ③チーム内の意見を関係づける練習（意見の構造化） ④チーム内の意見を見える化する知識を付ける ②D④グループ【対面】 ①情報を持ち寄り、合わせる練習（話し言葉のみ） ②テーマに対する意見を提示する練習（付箋を使う） ③意見を照合し、グルーピングをする練習（付箋を使う） ④意見グループのタイトル付（意見の抽象化） 4 ③D④グループ【オンデマンド】意見の抽象化・チーム内における意見の構造を探る ①A③グループ【対面】意見グループの関係性を探る練習 ②D④グループ【オンデマンド】 ①既出意見のグループ分け練習（Googleスライド使用） ②グループ化された意見にタイトルを付ける練習 ③チーム内の意見を関係づける練習（意見の構造化） ④チーム内の意見を見える化する知識を付ける ①A③【対面】 ①テーマにおけるラベルトーク（質問と確認） ②意見のグループ化とタイトル付 ③意見グループ間の関係性とストーリーを作る 5 ①A③グループ【オンデマンド】意見における関係性の探り方 ②D④グループ【対面】意見グループの関係性を探る練習 ①A③【オンデマンド】 ①視点を定める必要性を知る ②視点の多様性を知る ③他者の意見の視点を探り、自身の視点や意見と比較する ④関係性の中から、自分の意見を抽出・確立させる方法 ⑤ビブリオバトルの取り組み方 ②D④グループ【対面】 ①テーマにおけるラベルトーク（質問と確認） ②意見のグループ化とタイトル付 ③意見グループ間の関係性とストーリーを作る 6 ③D④グループ【オンデマンド】意見における関係性の探り方 ①A③グループ【対面】情報伝達：大学でのレポートの作り方

	<p>③④グループ【オンデマンド】 ①視点を定める必要性を知る ②視点の多様性を知る ③他者の意見の視点を探り、自身の視点や意見と比較する ④関係性の中から、自分の意見を抽出・確立させる方法 ⑤ビブリオバトルの取り組み方</p> <p>③④【対面】 ①文章の構成 序論・本論・結論 ②引用・出典の書き方 ③推敲とは？ ④推敲実践問題にトライ</p>
7	<p>③④グループ【オンデマンド】 ビブリオバトルをまとめるにあたって ③④グループ【対面】 情報伝達：大学でのレポートの作り方</p> <p>③④【オンデマンド】 ①内容の項目化・構造化にチャレンジする。 ②書籍の内容を見える化する。（内容項目の構造化） ③まとめ方</p>
8	<p>③④グループ【対面】 ①文章の構成 序論・本論・結論 ②引用・出典の書き方 ③推敲とは？ ④推敲実践問題にトライ</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 ビブリオバトルをまとめるにあたって ③④グループ【対面】 ビブリオバトル</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 ①内容の項目化・構造化にチャレンジする。 ②書籍の内容を見える化する。（内容項目の構造化） ③まとめ方</p>
9	<p>③④【対面】 ①発表 ②評価</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 情報伝達：ビジネスの世界における「伝わるシナリオ」の作り方 ③④グループ【対面】 ビブリオバトル</p> <p>③④【オンデマンド】 ①Prep法・ロジックツリーの作り方 ②ビジネスの世界で伝わりやすい「資料」の作り方</p>
10	<p>③④グループ【対面】 ①発表 ②評価</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 情報伝達：ビジネスの世界における「伝わるシナリオ」の作り方 ③④グループ【対面】 チームビルディング実習1</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 ①Prep法・ロジックツリーの作り方 ②ビジネスの世界で伝わりやすい「資料」の作り方</p>
11	<p>③④【対面】（ゲスト講師） ①実践を通して、役割を理解する ②チームビルディング実践① ③チームビルディング実践② ④これからのリーダーシップとは？</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 違いを知ろう（コミュニケーション知識） ③④グループ【対面】 チームビルディング実習1</p> <p>③④【オンデマンド】 ①異文化 ②ジェンダー ③LGBTQ ④違いは日常的に存在していることを知る（性格や考え方の違い）</p>
12	<p>③④グループ【対面】（ゲスト講師） ①実践を通して、役割を理解する ②チームビルディング実践① ③チームビルディング実践② ④これからのリーダーシップとは？</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 違いを知ろう（コミュニケーション知識） ③④グループ【対面】 チームビルディング実習2</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 ①異文化 ②ジェンダー ③LGBTQ ④違いは日常的に存在していることを知る（性格や考え方の違い）</p>
13	<p>③④【対面】（ゲスト講師） ①安心の場を作るための方法 ②チームビルディング実践③ ③チームビルディング実践④</p> <p>③④グループ【オンデマンド】 社内コミュニケーション ③④グループ【対面】 チームビルディング実習2</p>

	<p>①報連相：報告の必要性（ケーススタディ） ②報連相：連絡の必要性（ケーススタディ） ③報連相：相談の必要性（ケーススタディ）</p> <p>①安心の場を作るための方法 ②チームビルディング実践③ ③チームビルディング実践④</p> <p>①報連相：報告の必要性（ケーススタディ） ②報連相：連絡の必要性（ケーススタディ） ③報連相：相談の必要性（ケーススタディ）</p> <p>①チームビルディング実践⑤ ②チームビルディング実践⑥ ③チームビルディング振り返り</p> <p>①ビジネス・会社とは何か ②経済とは何か（あなたの毎日を振り返る） ③世界の中の日本の役割</p> <p>①チームビルディング実践⑤ ②チームビルディング実践⑥ ③チームビルディング振り返り</p>
14	<p>①報連相：報告の必要性（ケーススタディ） ②報連相：連絡の必要性（ケーススタディ） ③報連相：相談の必要性（ケーススタディ）</p> <p>①チームビルディング実践⑤ ②チームビルディング実践⑥ ③チームビルディング振り返り</p>
15	<p>①報連相：報告の必要性（ケーススタディ） ②報連相：連絡の必要性（ケーススタディ） ③報連相：相談の必要性（ケーススタディ）</p> <p>①チームビルディング実践⑤ ②チームビルディング実践⑥ ③チームビルディング振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○A：チーム内で積極的に課題解決に向けて取り組み、自己の役割を自ら作る努力ができる。言葉で活動の報告ができる。また他者の存在価値を認め、言葉や行動で相手に伝えることができる。</p> <p>◎C：意見の根拠を提示または問うことができる。またチーム内での考え方や視点の相違を分析し、目的にむけての方向付けができる。</p>
事前・事後学習	<p><事前学習> 定期的を実施する、語彙テストの範囲に対し、準備学習を行う。（30分程度）</p> <p><事後学習> 様々な演習の結果をノート等に記録として残し、他科目の学びへどう活用するかを考える。また、学習に関する指定の資料・書籍を読み、その要旨をノート等に文章記録として残す。（30分程度）</p>
指導方法	<p>オンデマンドでの講義学習と、対面での演習を交互に実施する。</p> <p>適宜ゲスト講師による指導あり。</p> <p>知識面においては、オンデマンド回の後に、適宜小テストを実施する。</p> <p>演習面においては、グループワークが主となる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：学生間での相互評価、および個人の活動記録を報告する課題の提出状況と内容を元に評価する。</p> <p>C：小テスト課題の提出状況、および定期課題の提出状況を元に評価する。</p> <p>授業への貢献度50%、課題50%</p>
テキスト	<p>特になし。授業時にプリントを配布・提供する。</p>
参考書	<p>授業時に適宜紹介する。</p>
履修上の注意	<p>・課題に関しては定時に提出を必ずすること。</p> <p>・グループワークには積極的に参加すること。</p> <p>・グループワークにおける意見は正解不正解を求めるものではないため、「わからない」ではなく「考えて生み出す」努力をすること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G11C03			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げる。課題プリントは、総合教養センターへ期限内に提出する。(60分程度)		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%		
テキスト	毎回プリントを配布する		
参考書	SPI非言語・言語：『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)		

履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G11C04			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げる。課題プリントは、総合教養センターへ期限以内に提出する。(60分程度)		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点(受講貢献度、課題) 50%		
テキスト	毎回プリントを配布する		

参考書	SPI非言語・言語：『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G11C05			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	<p>第1回 複雑な計算、数字の英語 就職試験における複雑な計算問題をケアレスミスのない解法を学びます。また、英語での数字の読み方、数字の表記について学びます。</p> <p>第2回 集合 さまざまな調査結果の表をベン図を用いて整理して解く方法を学びます。</p> <p>第3回 場合の数 確率の計算のもととなる場合の数について学びます。</p> <p>第4回 確率の計算 第3回の場合の数をもとに、確率の計算を学びます。</p> <p>第5回 単位の変換 単位を表すアルファベットの意味を知り、その変換を学びます。</p> <p>第6回 年齢算 就職試験に頻出の年齢算、仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第7回 割合 割合には歩合や百分率などもありますが、数学の基礎ともいえる内容です。これを理解することによって、苦手だった文章題もできるようになります。</p> <p>第8回 単位と割合 第5回の単位の変換と第7回の割合の複合問題です。</p> <p>第9回 損益算 就職試験に必出の損益算を学びます。仕事における最低限の考え方を学びます。</p> <p>第10回 濃度算 濃度算とはいうものの実は単なる割合ということを理解します。また%の感覚を身に付けます。</p> <p>第11回 規則性 数字や文字の規則性をいかに簡単に見つけるかを学びます。</p> <p>第12回 鶴亀算、平均 和算の1つに鶴亀算というのがありますが、それについて学びます。また、平均についてを学びます。</p> <p>第13回 旅人算、通過算、流水算 旅人算、通過算、流水算のいずれも速さの問題の応用です。</p> <p>第14回 仕事算 就職試験に頻出の仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第15回 テストセンター対策 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行います。</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。（30分程度） 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。（60分程度） ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、 平常点（授業貢献度、課題）50%
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2024最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング	e-learning教材、Google Classroom

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
白川はるひ、村木桂子、江原数彦			
ナンバリング：G12C06			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。卒業直後および1年前期の目標設定と行動のふりかえり、就職活動に向けての準備、人生100年時代のキャリア設計という3つの柱で授業を組み立てる (授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア(=生き方)選択の力を養う。 ◎A：自らの目標を明確に掲げて学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。 ◎C：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にする。
授業計画	1 授業ガイダンス ・ 授業ガイダンス ・ 「キャリアデザイン」とは 2 就職活動に関して1 社会が求める力(グループワーク) ・ 就職活動の流れ(キャリアセンター) ・ 社会が求める力とは 3 就職活動に関して2 ・ 就職活動関連サイトについて(キャリアセンター) 4 セルフマネジメント1(グループワーク) ・ 効果的な目標の立て方 ・ 自律的学修力について 5 自己分析1(グループワーク) ・ 入学前までの自身の活動や感情などをふりかえり、自分自身への理解を深める 6 人生100年時代の生き方1(グループワーク) ・ 卒業後の人生について考える 7 自己分析2(ゲスト講師)(グループワーク) ・ 自己分析テストの結果と解説 8 インターンシップとは、セルフマネジメント2(グループワーク) ・ インターンシップとは(キャリアセンター) ・ セルフ・コーチングとは ・ タイムマネジメント 9 企業とは、働くとは ・ インターンシップ説明会を通して企業や働くということについて考える(キャリアセンター) 10 履歴書の書き方 ・ 履歴書の書き方を理解する(キャリアセンター) 11 就職試験とは ・ 就職試験の種類や内容を理解する 12 ビジネスマナー ・ ビジネスメールの書き方、電話のかけ方など(キャリアセンター) 13 前期の省察と今後のキャリア計画1 ・ 前期の省察と今後のキャリア計画についてまとめる ・ 学生体験談 14 前期の省察と今後のキャリア計画2(グループワーク) ・ 前期の省察と今後のキャリア計画について発表する 15 人生100年時代の生き方2(ゲスト講師) ・ これからの時代のキャリア形成、今後の労働市場について
学習成果・到達目標・基準	◎A：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。 ◎C：社会の現状、業界や自分自身に関する理解等をもとに、後期の学修計画について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習 ・ 配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ(30分) 事後学習 ・ 自らたてた行動計画の見直し、また、実践に関してのふりかえり(30分) ・ 授業内で指示された事後課題(確認テスト、ふりかえり、ワークシートなど)への取り組み(30分)
指導方法	授業は主に、講義、個人ワーク、グループワークで進める。個人ワークを行ったうえでのグループワークになることが多いため、個人ワークにしっかり取り組むことが必要となる。

	<p>授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れが求められる。 キャリアセンター職員による説明、ゲスト講師による講義などの週もある。</p> <p>フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する C：最終課題、提出物によって評価する</p> <p>最終課題30% 平常点70%（提出物60%、授業への貢献度10%）</p>
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	<p>大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第3版』日経PB社, 2019 村山昇 著『働き方の哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2018 藤村博之 編『考える力を高めるキャリアデザイン入門』有斐閣, 2021 岩上真珠, 大槻奈診 著『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣, 2014 鈴木義幸 著『理想の自分をつくる セルフトーク マネジメント 入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2021 他</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・学科別に各教室で受講する週、全学科同時にホールで受講する週がある。連絡をしっかりと確認し、集合場所をまちがえないようにすること。 ・各自ファイルを用意し、ワークシートなどは保存しておくこと。最終課題作成時だけでなく、後期の就職活動の準備のときにも活用できる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦、村木桂子、苗村晶彦			
ナンバリング：G23C07	条件付き履修		
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現</p>	<p>(授業内容) 実際の企業や公的機関が抱える「課題」を共有し、課題解決に向けてのアイデアを創出する「産官学連携科目」である。単なる思い付きではなく「現状調査」を重要視する。そのため事前学習や事後学習時間を使用して各自が「現場視察」を行うこともある。さらに、集めた情報の中に潜むビジネスチャンスを発見するための手法を学び、チームにて戦略の立案を行う。最終的には企業や公的機関に向けてプレゼンテーションを実施する。 (授業目標) ○A：主体的に行動し計画性をもってプロジェクトを遂行できる。 ◎D：マーケティング的視点で「企業課題」を調査・分析し、解決に向けての戦略立案と企画立案ができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 授業ガイダンス ・ 授業の目的を知る ・ マーケティングの概念を知る ・ 連携企業について調査する</p> <p>2 連携企業を知る① ・ 連携企業より課題を提示いただく ・ 疑問点等を質問する</p> <p>3 連携企業を知る② 顧客を知る① ・ 連携企業の目的を理解する ・ 連携企業の強みと弱みを理解する（強み・弱みポスター作り） ・ 連携企業の顧客層を理解する</p> <p>4 顧客を知る② ・ 消費者の購買行動心理を知る ・ 連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る①</p> <p>5 顧客を知る③ ・ 連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る② ・ 顧客の行動マップを作成する</p> <p>6 競合企業を知る ・ 競争社会を理解する ・ 競合企業を探る ・ 競合一覧マップを作成する</p> <p>7 分析・戦略立案① ・ SWOT分析及びクロスSWOT戦略を理解する ・ 連携企業のSWOT分析を行う ・ SWOT分析用ポスターを作成する</p> <p>8 分析・戦略立案② ・ SWOT分析用ポスターを活用して課題を発見し、戦略を立てる</p> <p>9 連携企業とのすり合わせ ・ 現段階までの現状分析・戦略立案の状況について、チームごとに企業と擦り合わせを行う ・ 擦り合わせの後の戦略の修正を行う</p> <p>10 企画立案① ・ 企画立案の方法を理解する ・ 戦略を具体化する①</p> <p>11 企画立案② ・ 戦略を具体化する②</p> <p>12 発表に向けての準備① ・ 発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する①</p> <p>13 発表に向けての準備② ・ 発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する② ・ 発表の練習を行う</p> <p>14 企業に向けての発表・提案① 第1グループの企画案を発表する</p> <p>15 企業に向けての発表・提案② 第2グループの企画案を発表する</p>
<p>学習成果・到達目標・基準</p>	<p>○A：教員が示したスケジュールを元にしなが、チームにおける計画立案に参画し、実現に向けて自己の役割を遂行することができる。またチームでの遂行状況に応じて臨機応変に計画を立て直すことができる。 ◎D：マーケティング的視点を学ぶことで、現状の様々な課題の中から解決へのヒントを発見することができる。また、実際の企業事例調査の結果を分析し、得られたヒントから戦略をたて、企画へと結びつけることができる。</p>

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・提携先企業のホームページ等を活用して、企業理解に努める。 ・顧客理解に向けてのアンケート等を授業外にて実施し、集計する。 ・必要に応じて、現場理解のための下見・見学を自主的に行う。 ・プレゼンテーションのための資料作りや練習を授業外にて実施する。 ・上記項目を行うにあたって、場合によりチームごとに授業外に集まりミーティングを行う。 ・毎時学習後、学習の記録を所定のフォームに入力する。 (60分～90分)
指導方法	<p>講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。主に前半は講義と個人ワークが中心であり、後半はグループワークが中心となる。</p> <p>フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：個人の学習記録の中から、チームでの活動を記録した項目を対象に教員が評価する。別途チーム内で学生が相互に評価をしたものを融合して、最終的に個人単位で評価する。</p> <p>D：個人ワーク課題において提出された成果物に対して、学習項目が正しく理解されているかを教員が個人単位で評価する。</p> <p>提出課題50%・他者評価20%・発表と発表に向けての活動評価30%。ただし、企業への発表の際（期間）に出席していることを必須とする。</p>
テキスト	<p>適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）</p>
参考書	<p>特になし。授業時にWeb等にて参考資料閲覧を求める。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・半年の期間のうち、前半は座学（講義）を中心とし、後半はグループワークを中心とする。そのため、後半は授業外を使ってチームで話し合ったり、役割分担作業を伴ったりする自主学習が増えることを理解して履修すること。 ・パソコン必携。 ・授業計画は企業の活動状況により適宜変更する可能性がある。 ・履修は総合教養科目の出席率・成績を基にした「選抜制」になるため、登録をしても必ずしも履修できるとは限らないので注意をすること。最終的な履修決定は後期開始時に決定する。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク・プレゼンテーション 他 対面でのワークであったり、Google Workspaceを活用したICT上でのワークであったり、様々なアクティブ・ラーニングを行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦、吉川尚志			
ナンバリング：G23C08	条件付き履修		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業内容) 実際の企業や公的機関が抱える「課題」を共有し、課題解決に向けてのアイデアを創出する「産官学連携科目」である。単なる思い付きではなく「現状調査」を重要視する。そのため事前学習や事後学習時間を使用して各自が「現場視察」を行うこともある。さらに、集めた情報の中に潜むビジネスチャンスを発見するための手法を学び、チームにて戦略の立案を行う。最終的には企業や公的機関に向けてプレゼンテーションを実施する。</p> <p>(授業目標) ○A：主体的に行動し計画性をもってプロジェクトを遂行できる。 ◎D：マーケティング的視点で「企業課題」を調査・分析し、解決に向けての戦略立案と企画立案ができる。</p>		
授業計画	1	授業ガイダンス	
		・授業の目的を知る	
		・マーケティングの概念を知る	
		・連携企業について調査する	
	2	連携企業を知る①	
		・連携企業より課題を提示いただく	
		・疑問点等を質問する	
	3	連携企業を知る② 顧客を知る①	
		・連携企業の目的を理解する	
		・連携企業の強みと弱みを理解する（強み・弱みポスター作り）	
		・連携企業の顧客層を理解する	
	4	顧客を知る②	
		・消費者の購買行動心理を知る	
		・連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る①	
	5	顧客を知る③	
		・連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る②	
		・顧客の行動マップを作成する	
	6	競合企業を知る	
		・競争社会を理解する	
		・競合企業を探る	
		・競合一覧マップを作成する	
	7	分析・戦略立案①	
		・SWOT分析及びクロスSWOT戦略を理解する	
		・連携企業のSWOT分析を行う	
		・SWOT分析用ポスターを作成する	
	8	分析・戦略立案②	
		・SWOT分析用ポスターを活用して課題を発見し、戦略を立てる	
	9	連携企業とのすり合わせ	
		・現段階までの現状分析・戦略立案の状況について、チームごとに企業と擦り合わせを行う	
		・擦り合わせの後の戦略の修正を行う	
	10	企画立案①	
		・企画立案の方法を理解する	
		・戦略を具体化する①	
	11	企画立案②	
		・戦略を具体化する②	
	12	発表に向けての準備①	
		・発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する①	
	13	発表に向けての準備②	
		・発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する②	
		・発表の練習を行う	
	14	企業に向けての発表・提案①	
		第1グループの企画案を発表する	
	15	企業に向けての発表・提案②	
		第2グループの企画案を発表する	
学習成果・到達目標・基準	<p>○A：教員が示したスケジュールを元にしなが、チームにおける計画立案に参画し、実現に向けて自己の役割を遂行することができる。またチームでの遂行状況に応じて臨機応変に計画を立て直すことができる。</p> <p>◎D：マーケティング的視点を学ぶことで、現状の様々な課題の中から解決へのヒントを発見することができる。また、実際の企業事例調査の結果を分析し、得られたヒントから戦略をたて、企画へと結びつけることができる。</p>		

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・提携先企業のホームページ等を活用して、企業理解に努める。 ・顧客理解に向けてのアンケート等を授業外にて実施し、集計する。 ・必要に応じて、現場理解のための下見・見学を自主的に行う。 ・プレゼンテーションのための資料作りや練習を授業外にて実施する。 ・上記項目を行うにあたって、場合によりチームごとに授業外に集まりミーティングを行う。 ・毎時学習後、学習の記録を所定のフォームに入力する。 (60分～90分)
指導方法	<p>講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。主に前半は講義と個人ワークが中心であり、後半はグループワークが中心となる。</p> <p>フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：個人の学習記録の中から、チームでの活動を記録した項目を対象に教員が評価する。別途チーム内で学生が相互に評価をしたものを融合して、最終的に個人単位で評価する。</p> <p>D：個人ワーク課題において提出された成果物に対して、学習項目が正しく理解されているかを教員が個人単位で評価する。</p> <p>提出課題50%・他者評価20%・発表と発表に向けての活動評価30%。ただし、企業への発表の際（期間）に出席していることを必須とする。</p>
テキスト	<p>適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）</p>
参考書	<p>特になし。授業時にWeb等にて参考資料閲覧を求める。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・半年の期間のうち、前半は座学（講義）を中心とし、後半はグループワークを中心とする。そのため、後半は授業外を使ってチームで話し合ったり、役割分担作業を伴ったりする自主学習が増えることを理解して履修すること。 ・パソコン必携。 ・授業計画は企業の活動状況により適宜変更する可能性がある。 ・履修は総合教養科目の出席率・成績を基にした「選抜制」になるため、登録をしても必ずしも履修できるとは限らないので注意をすること。最終的な履修決定は後期開始時に決定する。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク・プレゼンテーション 他 対面でのワークであったり、Google Workspaceを活用したICT上でのワークであったり、様々なアクティブ・ラーニングを行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦、布施梓、中村公子			
ナンバリング：G23C09	条件付き履修		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業内容） 実際の企業や公的機関が抱える「課題」を共有し、課題解決に向けてのアイデアを創出する「産官学連携科目」である。単なる思い付きではなく「現状調査」を重要視する。そのため事前学習や事後学習時間を使用して各自が「現場視察」を行うこともある。さらに、集めた情報の中に潜むビジネスチャンスを発見するための手法を学び、チームにて戦略の立案を行う。最終的には企業や公的機関に向けてプレゼンテーションを実施する。 （授業目標） ○A：主体的に行動し計画性をもってプロジェクトを遂行できる。 ◎D：マーケティング的視点で「企業課題」を調査・分析し、解決に向けての戦略立案と企画立案ができる。
授業計画	1 授業ガイダンス ・ 授業の目的を知る ・ マーケティングの概念を知る ・ 連携企業について調査する 2 連携企業を知る① ・ 連携企業より課題を提示いただく ・ 疑問点等を質問する 3 連携企業を知る② 顧客を知る① ・ 連携企業の目的を理解する ・ 連携企業の強みと弱みを理解する（強み・弱みポスター作り） ・ 連携企業の顧客層を理解する 4 顧客を知る② ・ 消費者の購買行動心理を知る ・ 連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る① 5 顧客を知る③ ・ 連携企業がターゲットとする顧客の要求を探る② ・ 顧客の行動マップを作成する 6 競合企業を知る ・ 競争社会を理解する ・ 競合企業を探る ・ 競合一覧マップを作成する 7 分析・戦略立案① ・ SWOT分析及びクロスSWOT戦略を理解する ・ 連携企業のSWOT分析を行う ・ SWOT分析用ポスターを作成する 8 分析・戦略立案② ・ SWOT分析用ポスターを活用して課題を発見し、戦略を立てる 9 連携企業とのすり合わせ ・ 現段階までの現状分析・戦略立案の状況について、チームごとに企業と擦り合わせを行う ・ 擦り合わせの後の戦略の修正を行う 10 企画立案① ・ 企画立案の方法を理解する ・ 戦略を具体化する① 11 企画立案② ・ 戦略を具体化する② 12 発表に向けての準備① ・ 発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する① 13 発表に向けての準備② ・ 発表のための役割を決め、資料・制作物を制作する② ・ 発表の練習を行う 14 企業に向けての発表・提案① 第1グループの企画案を発表する 15 企業に向けての発表・提案② 第2グループの企画案を発表する
学習成果・到達目標・基準	○A：教員が示したスケジュールを元にしなが、チームにおける計画立案に参画し、実現に向けて自己の役割を遂行することができる。またチームでの遂行状況に応じて臨機応変に計画を立て直すことができる。 ◎D：マーケティング的視点を学ぶことで、現状の様々な課題の中から解決へのヒントを発見することができる。また、実際の企業事例調査の結果を分析し、得られたヒントから戦略をたて、企画へと結びつけることができる。

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・提携先企業のホームページ等を活用して、企業理解に努める。 ・顧客理解に向けてのアンケート等を授業外にて実施し、集計する。 ・必要に応じて、現場理解のための下見・見学を自主的に行う。 ・プレゼンテーションのための資料作りや練習を授業外にて実施する。 ・上記項目を行うにあたって、場合によりチームごとに授業外に集まりミーティングを行う。 ・毎時学習後、学習の記録を所定のフォームに入力する。 (60分～90分)
指導方法	<p>講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。主に前半は講義と個人ワークが中心であり、後半はグループワークが中心となる。</p> <p>フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：個人の学習記録の中から、チームでの活動を記録した項目を対象に教員が評価する。別途チーム内で学生が相互に評価をしたものを融合して、最終的に個人単位で評価する。</p> <p>D：個人ワーク課題において提出された成果物に対して、学習項目が正しく理解されているかを教員が個人単位で評価する。</p> <p>提出課題50%・他者評価20%・発表と発表に向けての活動評価30%。ただし、企業への発表の際（期間）に出席していることを必須とする。</p>
テキスト	<p>適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）</p>
参考書	<p>特になし。授業時にWeb等にて参考資料閲覧を求める。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・半年の期間のうち、前半は座学（講義）を中心とし、後半はグループワークを中心とする。そのため、後半は授業外を使ってチームで話し合ったり、役割分担作業を伴ったりする自主学習が増えることを理解して履修すること。 ・パソコン必携。 ・授業計画は企業の活動状況により適宜変更する可能性がある。 ・履修は総合教養科目の出席率・成績を基にした「選抜制」になるため、登録をしても必ずしも履修できるとは限らないので注意をすること。最終的な履修決定は後期開始時に決定する。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク・プレゼンテーション 他 対面でのワークであったり、Google Workspaceを活用したICT上でのワークであったり、様々なアクティブ・ラーニングを行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G13C10	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業内容】 「行動経済学」は心理学の要素を取り入れた新しい経済学の新分野であり、人間が無意識に行う不合理な判断や行動を解明するものだ。人間心理を把握すれば、自分自身や周囲の人の行動をより良い方向に導くことができる。既に現実社会において、社会問題やビジネス課題の解決に活用されている。本講座では行動経済学の基本である、不合理な判断や行動のパターンをについて理解する。その知識をふまえて現実の課題解決における活用方法を考えていく。</p> <p>【授業目標】 ○C：不合理な行動を避けて、より良い行動を促す方法を考えられる。 ◎D：行動経済学とは何か、不合理な行動の基本的なパターンを理解できる。</p>
授業計画	<p>1 全体概要の解説／行動経済学とは何か 行動経済学の歴史、経済学との違い、人間のとらえ方、行動経済学を学ぶメリットについて理解する。</p> <p>2 ナッジ ナッジの提唱者と基本的な考え方、環境問題、健康問題など現実社会での活用事例を理解する。</p> <p>3 ヒューリスティック① 短時間で手近な結論で判断を下す「ヒューリスティック」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「利用可能性ヒューリスティック」「代表性ヒューリスティック」等</p> <p>4 ヒューリスティック② ヒューリスティック①で解説した法則に関わる、現実社会の事例について理解する。</p> <p>5 プロスペクト理論① 価値の変化と人の反応に関する「プロスペクト理論」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「損失回避、保有効果」「現状維持バイアス」等</p> <p>6 プロスペクト理論② プロスペクト理論①で解説した法則に関わる、現実社会の事例について理解する。</p> <p>7 フレーミング① 対象の見せ方で見る人の判断や選択が変わる「フレーミング」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：「サンクコスト効果」「決定麻痺」等</p> <p>8 フレーミング② フレーミング①で解説した法則に関わる、現実社会の事例について理解する。</p> <p>9 時間割引 手に入れるタイミングで価値が変わる「時間割引」および関連する主な理論、これらを証明した実験や研究、現実社会の事例について理解する。 主な理論：「現在志向バイアス」「上昇選好」等</p> <p>10 その他の行動経済学の法則① その他の理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：自分を高く評価してしまう「認知的不協和」等</p> <p>11 その他の行動経済学の法則② その他の行動経済学の法則①で解説した法則に関わる、現実社会の事例について理解する。</p> <p>12 その他の行動経済学の法則③ その他の理論と、これらを証明した実験や研究について理解する。 主な理論：社会や周囲に合わせてしまう「同調効果」等</p> <p>13 その他の行動経済学の法則④ その他の行動経済学の法則③で解説した法則に関わる、現実社会の事例について理解する。</p> <p>14 行動経済学によるマーケティング現象の解釈① ビジネスの成否を左右する心理的バイアスの事例と、成功や失敗の要因を理解する。 事例：ソーシャルゲーム、サブスク、ポイ活 等</p> <p>15 行動経済学によるマーケティング現象の解釈② 買い物における不合理な行動の事例と、その要因を理解する。 事例：ネットオークション、ついで買い 等</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：不合理な行動の原因を把握し、将来における不合理な行動を予測するなどにより、より良い行動を促す方法を考えられる。 ◎D：不合理な判断や行動のパターン、これらによって引き起こされる結果を説明できる。
事前・事後学習	主に事後学習を行う。講義内容をふまえて、実生活で見聞きし触れた不合理な判断や行動に対する、自らの意見を整理する。課題が出た際は期限に合わせて作成や提出を行う。（事前2時間、事後2時間）

指導方法	講義によるインプットを中心に行う。新たに学んだ理論に関して理解度を測る小テストや個人ワークを適宜行う。理論の活用に関する個人ワークやグループワークによるアウトプットの機会も設ける。成果物に対するフィードバックは、直後から事後までさまざまなタイミングで、口頭から文章コメントまで複数の方法により行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：個人ワークやグループワークで提出された成果物、行動経済学の活用アイデアのユニークさや実現性をもとに、個人単位での評価を行う。グループワークへの参加状況なども加味する。 ◎D：小テストの結果、個人ワークやグループワークで提出された成果物の評価を中心に、個人単位で理解度を評価する。 提出課題物（個人およびグループ）40%、小テストの結果 40%、授業における取り組みの積極性 20%
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンが必要。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める
履修上の注意	人間心理に対する好奇心や関心をもっていることが必要。 パソコン必携。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる議論、個人ワークやグループワークのプレゼンテーション、Google Workspace上でのワークなど様々な形で行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
橋本之克			
ナンバリング：G23C09	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業内容】 セールスマネジメントの学習テーマは、セールス戦略の構築と遂行である。将来の就職後に行う商品販売から、自分を売る就職活動までセールスは多様だ。あらゆるセールスはターゲットの心理や意思決定プロセスを理解することが重要である。またチームで行うセールス活動はメンバー同士の関係作りも大切だ。これらセールス全般に関わる多様な要素を戦略的に組み立てる「セールスマネジメント」を学習する。ビジネス現場におけるブランディングや広告の事例、人間心理を解明する行動経済学などを交えて幅広く学ぶ。</p> <p>【授業目標】 ◎C：セールスする対象物を分析し、戦略的なアピールの方法を考えられる。 ○D：セールスの戦略に必要な知識の内容や活用方法を理解できる。</p>
授業計画	<p>1 セールスマネジメント全体概要 セールスマネジメントの要素を把握する。顧客やターゲットとのコミュニケーションを理解する。</p> <p>2 セールスの戦略 戦略的思考と、その重要性を理解する。戦略構築と実行のフレームやセオリーを知り、相手の意識や行動を変えるコミュニケーション活動を理解する。</p> <p>3 情報収集やリサーチ 情報収集や分析の手法を理解する。情報分析の失敗や成功の事例とその要因を把握する。</p> <p>4 インサイト（深層心理）とは何か ターゲットのインサイト（深層心理）について、事例をもとに理解する。関連する行動経済学についても知る。</p> <p>5 さまざまなインサイト（深層心理）と、深層心理を突く方法 ターゲットのインサイト（深層心理）をコントロールする「ポジショニング戦略」や、メディアを活用する戦術を理解する。</p> <p>6 セールスの核となるコンセプト コンセプトとは何か、コンセプトの役割、コンセプトの作り方と事例、コンセプト評価手法を理解する。</p> <p>7 セールスに用いるメディア マスメディアやデジタルメディアの活用方法、ターゲットを動かす技法を知る。</p> <p>8 ブランド戦略 ブランドとは何か、企業のブランドスローガンが伝える意味、ブランド浸透方法などブランドの基本を理解する。</p> <p>9 ブランドの活用方法 アイキャッチ、視覚や聴覚への訴求など、ターゲットへのアピールに必要なブランド構成要素を理解する。</p> <p>10 チームで行うセールス戦略の留意点 関係者間の意識共有や情報交換におけるミスを回避し、対外的な折衝や交渉を有利に進めるための必要な心理を理解する。</p> <p>11 対人営業の話法 説得に用いる応酬話法について、さらに行動経済学によって話法を強化する方法を理解する。</p> <p>12 自分を売る「就活」におけるアピール 自己や企業を分析する際のミスを回避する、アピール材料を正しい解釈する、面接の準備をスムーズに進めるなど、さまざまな活動における留意点を理解する。</p> <p>13 セールスのためのプレゼンテーション 事前に得るべき情報、伝え方と残し方などプレゼンテーションの基本を知る。さらに「暗記」によるプレゼンテーション準備法を理解、実践する。</p> <p>14 セールスの戦略構築と実施① グループワークによるセールス戦略の構築：課題のオリエンテーションを受け、グループ討議と資料作成を行う。</p> <p>15 セールスの戦略構築と実施② グループワークによるセールス戦略の構築：戦略の資料作成とプレゼンテーション実施。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：セールスする対象物の差別点や優位点、ターゲットの特性を分析し、アピール方法を組み立てられる。 ○D：セールスの戦略に必要なさまざまな知識の特性、用いるべき場面や使い方を理解できる
事前・事後学習	主に事後学習を行う。講義内容をふまえて実生活で見聞きし触れた商品のセールス方法に対して、自らの意見を整理する。課題が出た際は期限に合わせて作成、提出する。（事前30分、事後30分）
指導方法	講義によるインプットを中心に、個人ワークやグループワークによるアウトプットを随時行う。アウトプットされた成果物に対するフィードバックは、直後から事後までさまざまなタイミングで、口頭から文章コメントまで複数の方法により行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：個人ワークやグループワークで提出された成果物の評価を中心にグループワークへの参加状況も加味して、戦略の完成度やアイデアのユニークさをもとに個人単位の評価を行う。 ○D：個人ワークやグループワークで提出された成果物の評価を中心にグループワークへの参加状況も加味して、個人単位で理解度を評価する。 提出課題物（個人およびグループ）60%、授業における取り組みの積極性 40%
テキスト	基本的に毎回の講義において、文章や図、静止画や動画などを配布する。マイクロソフトのパワーポイント、またはPDFのデータを閲覧および保存できるパソコンが必要。
参考書	特になし。適宜、Web閲覧を求める
履修上の注意	セールス全般に対する好奇心、特にブランディングや広告に対する関心をもっていることが必要。 パソコン必携。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる議論、個人ワークやグループワークのプレゼンテーション、Google Workspace上でのワークなどさまざまな形で行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
森田翔、村木桂子			
ナンバリング：G14C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) プレゼンテーションの3大要素である「プレゼンス（人間力：誰が伝えるか）」「シナリオ（構成力：何を伝えるか）」「デリバリー（伝達力：どのように伝えるか）」の基礎を学び、社会人として身に付けるべき人間関係の原則について実体験を伴って理解する。 (授業目標) 誰にでも再現可能な型として体系的にスキルを習得することで、自信が身に付き、人前で話すことが好きになり、社会人として即戦力の人材を育成する。 ◎E 人の心を動かし、具体的な行動を促し、周囲に影響力を発揮することができる ○D 習得したスキルを単なる知識に留めるのではなく、状況に応じて的確に活用することができる
授業計画	1 ガイダンス 現状の課題と理想の状態を明確にする ・ 授業内容と進め方の説明 ・ 講師の自己紹介 ・ 自己分析 2 プレゼンテーションの基礎 プレゼンテーションの目的を正しく理解する ・ 論理と感情の違い ・ 人間の行動心理 ・ 主導権の所在 3 選ばれる自己紹介の作り方 1分間自己紹介の型を習得する ・ 共通点の創出 ・ 関係性の構築 ・ コール&レスポンス 4 興味を惹きつける伝え方 興味喚起の型を習得する ・ 当事者意識 ・ 問題意識 ・ 理想意識 ・ プロセス意識 5 説得力を持たせる伝え方 ロジカルプレゼンテーションの型を習得する ・ PREP法 ・ ホールパート法 ・ ダイヤモンドモデル 6 信頼を獲得する伝え方 信頼獲得の型を習得する ・ 対比 ・ 具体例 ・ 社会的証明 7 人を動かす伝え方 エモーショナルプレゼンテーションの型を習得する ・ ゴールデンサークル理論 ・ ストーリーテリング 8 資料の作り方と原稿の覚え方 スライドのルールを理解する ・ 作成の手順 ・ アイデアの創出 ・ ショートカットキー 9 緊張のコントロールの仕方 大事な場面で最高のパフォーマンスを発揮する ・ あがり症の克服 ・ フィラーの削減 ・ ジェスチャー 10 成果が上がる事前準備の仕方 事前に確認しておくべき必須情報を理解する ・ 情報の優先順位 ・ 返報性の法則 ・ 想定質問 11 最終発表会の準備 最終発表会の資料と原稿を推敲する

	12	予選会第1グループ 参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会の登壇者を決定する
	13	予選会第2グループ 参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会の登壇者を決定する
	14	最終発表会のリハーサル 最終発表会の登壇者とサポートメンバーのチームを作成しリハーサルを行う
	15	最終発表会（ホール） 学習成果を発表する ・総評
学習成果・ 到達目標・基準	◎E	プレゼンテーションの目的を理解し、情報をわかりやすく伝えて、思いを表現することができる
	○D	目的を達成するための手段を理解し、適切な手順で資料を作成して、発表することができる
事前・事後学習		事前学習：前回の授業内容を授業スライドを見て復習する（30分） 事後学習：毎回の授業課題に取り組む（30分）
指導方法		授業の進行は基本的にパワーポイントを使用し、形式は一方的な講義でなく積極的な実践を多く取り入れる。インプット→アウトプット→フィードバックを繰り返すことで、スキルを「知っている」状態から「できる」状態にする。 質疑応答の時間を十分にとり、可能な限り不明な点や不安な気持ちを解消する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E	授業での個人発表、グループ発表、および授業課題の撮影動画から総合的に評価する。
	D	授業課題の発表原稿、発表スライド、およびレポートから総合的に評価する。 授業での発表および授業課題40%、期末試験に代替する発表会40%、授業態度および貢献度20%
テキスト		なし。適宜プリントを配布する。
参考書		なし。
履修上の注意		一般的にプレゼンテーションスキルは個人差が大きいとされるが、自分と他人を比較して落ち込む必要はまったくなく、自分の特徴を理解してそれを磨くことで、誰もが聞き手に強力な印象を与える唯一無二の話し手になることができる。各自が現状の課題と理想の状態を明確にして、主体的に目標達成を目指してほしい。また、ビジネス現場において圧倒的に結果を出し続けている人は、インプットよりアウトプットを重視している。失敗を前向きに捉えて、発表を恥ずかしがらず、積極的に挑戦してほしい。楽ができる単位ではないが、プレゼンが得意な人も苦手な人も大きく成長することができる。真剣に受講すれば、一生役に立つ実力が手に入ることを約束する。この授業は、経営者や事業家などのプロフェッショナルを対象にプレゼンテーションの指導を行っている日本つかみ協会の講師陣により行われる。
アクティブ・ラー ニング		グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
ナンバリング：G14C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。 (授業目標) ○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。 ◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。
授業計画	1 オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？ 2 動機付け “やる気”のこころの働きを知る 3 マインドフルネス マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ 4 感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えているのか 5 発達 人の発達を学ぶ 6 青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ 7 性格 「人生の木」から見つめなおす 8 対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 9 対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える 10 社会の中の心理 人の態度（考え・評価）が変わるときとは 11 集団の心理 集団の力で起こる心理を学ぶ 12 ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える 13 心理療法から学ぶ 日常生活での工夫を学ぶ 14 勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 15 対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える
学習成果・到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。(90分)
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、簡単な心理検査等を体験できるようにする。ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で全体に向けて回答、または学生に問いかけて解決していく。

アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 C：受講態度（コメントペーパー含む）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心が持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ◎D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ○E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション (グループディスカッション) 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 教材を踏まえたグループディスカッション ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 2 芸術と出会うということ (グループディスカッション) 2つで1つのもの ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 3 彫刻：船越保武/神谷美恵子『生きがいについて』 (グループディスカッション) 美しさとは何か、生きがいとは何か ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 4 夏目漱石『夢十夜』 (グループディスカッション) 色と香りを楽しめる文学 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 5 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』 (グループディスカッション) 異文化理解・相互理解 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 6 中原中也『在りし日の思い出』 (グループディスカッション) 他と比べられない世界 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 7 東山魁夷という文学 (グループディスカッション) あちらとこちらの世界をつなぐもの ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 8 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』 人と何かを共有することの豊かさ ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 9 九鬼周造『いきの構造』 行為のなかの美しさ ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 10 サンテグジュペリ『星の王子さま』 経験からでしか学べないこと ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 11 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 ほんとうの幸い ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 12 ミヒャエル・エンデ『モモ』 あなたが、あなたらしくなる「星の時間」 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用) 13 世界と日本の美意識 (1) 絵画や工芸を中心に 14 世界と日本の美意識 (2) 絵と文字の交わり 15 世界と日本の美意識 (3) 今の我々の生活とどうつながっているのか
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ◎D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ○E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。(60分程度)

	事後学習：授業で学んだことからの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習(グループディスカッション、ペア・ワーク)を踏まえたリアクションを毎回書くことにより、自分が感得したものと丁寧に向き合う。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10% (総合的に評価する)
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペア・ワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C15	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素(話す・聞く・書く・読む)のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) ○B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ○D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ペア・ワーク) 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>2 敬語 (ペア・ワーク) 社会人基礎力を身につけるために ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>3 感じのいい話しかた (ペア・ワーク) コミュニケーションの基礎、日本語の音声 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>4 母語の大切さ (ペア・ワーク) 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>5 オノマトペ (ペア・ワーク) 豊かな言語生活 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>6 辞書のいろいろ (1) (ペア・ワーク) 辞書の特色について ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>7 辞書のいろいろ (2) (ペア・ワーク) 図書館での辞書比較 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>8 説明のしかた (ペア・ワーク) 情報提示の順序を学ぶ論理的文章の書きかた (中級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>9 絵の分析 (ペア・ワーク) 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>10 テキスト分析 (1) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (初級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>11 テキスト分析 (2) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (中級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>12 話し言葉と書き言葉 (ペア・ワーク) 社会人としての言語運用能力 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>13 対義語 (ペア・ワーク) ニュアンスの感得、注意深い言葉の選択 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>14 日本語の文字 (ペア・ワーク) 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>15 言葉遊び 言葉を分解し再構築することで生まれる新たな世界 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ○D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本(活字)に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。(60分程度) 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度)

	度) 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。(60分程度)
指導方法	ペア・ワーク(対話)を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G14C16			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (授業目標) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何か 2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義 3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代 4 現代社会と健康1 日本の健康問題 5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題 6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス 7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング 8 人間関係 話す力と聞く力について考える 9 発達段階と健康1（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 幼児期における運動の意義 10 発達段階と健康2 健康と余暇活動を考える 11 発達段階と健康3（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 高齢者における健康 12 ライフスタイルと健康 生体リズムと睡眠 13 救急法 障害時の救急、災害時の対応 14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について 15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える
学習成果・到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がける。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にGoogleフォームを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：Googleフォーム提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時に提出するGoogleフォーム・レポート30%、定期試験60%

テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。
参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
五十嵐淳子			
ナンバリング：G14C17			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 子どもの発達段階を踏まえ、子どもの育ちを支えるために求められる知識と保育技術、保育・教育内容にかかわることを総合的に学ぶことを目的とする。子どもの遊びと成長について理解し、子ども一人ひとりに寄り添うための必要な知識や教材を紹介するとともに、教材を製作し使用できるための実践的な理解の習得を目指す。 (授業目標) ◎D：子どもの発達の道筋を知り、子どもの成長を育むために必要な知識を修得できる。子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：保育教材の製作を通して豊かな感性を身に付けることができる。
授業計画	1 オリエンテーション 子どもの成長とは 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 2 グローバル化と子ども グローバル社会における子どもの理解 3 胎児期と母親 子育て支援の事例から 胎児期と母親の子育て支援 4 乳幼児期の発達過程と遊び 乳幼児期の発達と子どもの遊びについて 5 子どもと言葉 子どもの言葉の発達から見る子どもの英語教育 6 保育教材について 子どもと一緒に楽しむことができる保育教材の製作 7 国際理解と教育・保育 ドイツの事例を通じた国際理解教育と保育 8 小学校への入学 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。 9 児童期の教材について 小学校の児童を対象とした児童期における教材の製作 10 小学校低学年から高学年 小学校低学年から高学年の児童の発達の特徴について 11 現代社会を取り巻く子育てと保育 現代の子育てと保育を取り巻く現状と課題 12 子どもの遊び①：絵本の製作 絵本の意義について理解を深めるため、実際にミニ絵本を製作する 13 子どもの遊び②：保育教材 保育教材について学び、実際に子どもが喜ぶおもちゃ(くるくるペープサート)を製作する 14 多文化理解と子育て支援 多文化理解に視点を置いた地域子育て支援の実際 15 子どもの成長と多様な経験の重要性 子どもの成長と多様な経験やパースペクティブな考え方
学習成果・到達目標・基準	◎D：子どもの発達段階を踏まえ、子どもにとって必要な環境や教材について理解することができる。 ○E：子どもの成長にとって必要な教材を使用した保育実践について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、保育や子育てに関する新聞やニュース、文献等をまとめておく。(100分) 事後学習：授業時に学習した箇所のテキストや内容を見直し、自分の考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。(100分)
指導方法	対面授業で実施し、子どもの成長を育むために必要な素地を身に付けるために、講義だけではなく、教材製作や映像等を使用しながら実践的に理解できるようにする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：レポートの記述内容を評価する。 E：製作した教材を評価する。 授業への意欲・態度20%、教材製作40%、レポート40%で評価する。

テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係の学びーグローバル社会の子どもの未来を見据えてー』大学図書出版、2021年
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	ミニ絵本、保育教材の製作では各自必要なものを準備(画用紙、割りばし、はさみ、のり、色ペン、色鉛筆)して、製作することになります。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：鈴木かの子）			
ナンバリング：G14C18	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全25件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。 (授業目標) 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。 ○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ○C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：7月2日(日)の世界遺産検定を受験し、3級合格する。
授業計画	1 イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか 2 世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ 3 世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産 4 日本の世界遺産1 知床、北海道・北東北の縄文遺跡群、白神山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品、富士山 5 日本の世界遺産2 白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城、石見銀山遺跡とその文化的景観、厳島神社 6 日本の世界遺産3 原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島 7 世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教 8 世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア 9 世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化、危機遺産、時事問題 10 世界の自然遺産 世界の自然遺産 11 検定直前確認テスト 第52回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト 12 検定問題の解説 第52回世界遺産検定の3級問題の解説 13 最新動向の解説 世界遺産の新規登録に関する状況など 14 グループワーク 世界遺産についてのグループワーク 15 グループワーク 世界遺産についてのグループワーク
学習成果・到達目標・基準	○C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ○C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。(90分)
指導方法	指導方法： テキストとスライド画像、講義資料（プリント）を用いて、講義を進めます。 内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。 フィードバックの方法： リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをします。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験で評価する。</p> <p>C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。</p> <p>D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。</p> <p>検定試験：60%</p> <p>授業貢献度（自分の意見）：20%</p> <p>検定試験直前確認テスト：20%</p> <p>※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）</p>
テキスト	<p>きほんを学ぶ世界遺産100<第4版> 世界遺産検定3級公式テキスト</p> <p>世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 <2023年度版></p>
参考書	特になし
履修上の注意	世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	総合：選択
担当教員			
吉田敏行			
ナンバリング：G14C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業内容) 自分とは異なる考えや価値観を理解し受け入れることが異文化理解です。この授業ではそのきっかけとなるよう、世界の国々の歴史、文化、民族、習慣、宗教、食文化などについて学びます。そして日本と違う点も考えていきます。さらに外国人とのコミュニケーションの助けとなるような簡単なあいさつをさまざまな言語で練習します。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：今までの自分の考えにとらわれず、異文化への関心を持つようになる ◎D：各国の歴史文化を学び、それらの国に対する自分自身の印象や日本との相違点を述べるができる E：さまざまな国の言語で簡単なあいさつや自己紹介ができるようになる</p>		
授業計画	第1回	世界の地理、歴史概説 世界の地域ごとの特徴や国々の概説	
	第2回	フランスの言葉と文化 フランス語の簡単なあいさつとフランスの歴史文化を学ぶ	
	第3回	イタリアの言葉と文化 イタリア語の簡単なあいさつとイタリアの歴史文化を学ぶ	
	第4回	スペイン、ポルトガルの言葉と文化 スペイン語、ポルトガル語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第5回	ドイツ、オーストリアの言葉と文化 ドイツ語の簡単なあいさつとドイツ、オーストリアなどドイツ語圏の歴史文化を学ぶ	
	第6回	北欧の国々とオランダ、ベルギーの言葉と文化 スカンジナビア半島及びオランダ、ベルギーの歴史文化を学ぶ	
	第7回	スラブ民族の言葉と文化 ロシア語の簡単なあいさつと、スラブ世界の国々の歴史文化を学ぶ	
	第8回	中国の言葉と文化 中国語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第9回	朝鮮半島の言葉と文化 韓国語の簡単なあいさつと朝鮮半島の歴史文化を学ぶ	
	第10回	タイの言葉と文化 タイ語の簡単なあいさつと歴史文化を学ぶ	
	第11回	インドシナ半島の言葉と文化 ベトナム語の簡単なあいさつとベトナム、カンボジア、ラオスの歴史文化を学ぶ	
	第12回	インドネシア、マレーシア、シンガポールの言葉と文化 インドネシア語の簡単なあいさつとインドネシアやマレー半島の歴史文化を学ぶ	
	第13回	中南米の国々の歴史と文化 中南米の歴史文化を学ぶ	
	第14回	アフリカの歴史と文化 アフリカの歴史文化を学ぶ	
	第15回	異文化理解(総括) 世界の国々の歴史文化や宗教、風習、料理などをもう一度総復習し、日本文化と比較する	
学習成果・到達目標・基準	◎A：新しい知識を得て、自分とは異なる文化や価値観を理解し、積極的に興味を持つようになる ◎D：各国の歴史文化や特徴を正しく理解し、グローバル化が進む現代を生きるために役立てることができる E：外国人と接する機会の最初の会話のきっかけとなる簡単なあいさつなどができるようになる		
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う地域や国の基礎知識を事前に得ておくため、書籍、雑誌、インターネットの資料を読んだり、世界遺産や旅行の動画を見たりして準備をする(90分) 事後学習：授業内で配布された資料などをもとに、学んだことを自分なりにまとめておく(90分)		
指導方法	第一回目の授業で世界のそれぞれの地域の地理、歴史などを概説し、第二回目の授業から各国の詳しい解説をする 毎回の授業の導入として最初に扱う国の言語でのあいさつを紹介し、そこから文化、歴史へのアプローチをしていく フィードバックの方法：授業の最後に、学んだ事柄や自分の印象などを各自レポートに書いて提出してもらい、添削とコメントをして次回返却する		

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：提出してもらったレポートによりどの点にどれくらい理解したか、興味を持ったかを判断する D：講座で学んだことの総復習として定期試験において評価する E：各言語で学んだことをどの程度理解して覚えているか定期試験において評価する 定期試験50%、レポート30%、受講態度20%
テキスト	授業で配布するプリント 理解を深めるためにDVDなども使用する
参考書	専門書籍に関しては授業内でも紹介するが、日本及び外国に関するものならばすべて、ガイドブックや写真集なども参考書として読んでもらいたい
履修上の注意	少しでも日本や外国の歴史、文化、言語、料理、世界遺産などに興味がある学生ならば受講してみてください。講義形式の授業ですが、質疑応答や発言を多く求めるので、積極的に授業に参加できる学生が望ましいです。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G15C20			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 女性に関するテーマを切り口に日本社会を読み解いていく。そこから立ち現れる現代社会の傾向や課題、それぞれの関連性や原因を理解し、今を生きる当事者である自分がどのように行動していくべきかについて思索する。 (授業目標) ひとりの社会構成者として、社会への問題意識と参画意識をもつ。 ◎C：授業で扱った課題を自分事として捉え、解決策の提示と自らとるべき行動について説明することができる。 授業で扱う課題同士やその他の社会的課題との関連性について考え、論理的に説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について、データを示しながら適切に説明することができる。
授業計画	1 授業ガイダンス、日本社会の抱える課題を概観する（グループワーク） ・ガイダンス（授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意） ・現代日本社会でみられる女性をめぐる課題をひとつを取り出し、現代の特質を考える 2 女性と仕事1（グループワーク） ・就職・昇進など、女性の就業に関する現状と課題についてグループ学習 3 女性と仕事2（ディスカッション） ・女性の就業に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 4 女性と育児1（グループワーク） 仕事と育児の両立、「孤育て」など、育児に関する現状と課題についてグループ学習 5 女性と育児2（ディスカッション） ・育児に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 6 女性と貧困1（グループワーク） ・男女の賃金格差など、女性の貧困に関する現状と課題についてグループ学習 7 女性と貧困2（ディスカッション） ・女性の貧困に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 8 女性と教育1（グループワーク） ・男女の学歴差など、女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ学習 9 女性と教育2（ディスカッション） ・女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 10 女性と政治1（グループワーク） ・政治家の男女比率の格差など、女性と政治に関する現状と課題についてグループ学習 11 女性と政治2（ディスカッション） ・女性と政治に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 12 諸課題の関連性を考える（グループワーク） 授業で扱ってきた諸課題の関連性を検討する 13 「女性らしさ」とは（グループワーク） 「女性らしさ」とは何かを考える 14 よりよい社会を目指して（プレゼンテーション） ・日本社会でみられる女性問題に関してひとつテーマを絞り、各自でプレゼンテーションする（現状説明、解決策提示など） 15 まとめ（ディスカッション） ・これまで学んだことの総復習とディスカッション
学習成果・到達目標・基準	◎C：授業で扱った現代社会の課題解決に向けて、自らとるべき行動を考え説明することができる。 授業で扱う課題同士の関連性を図示して説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について概要を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・毎日のニュースチェック（30分） ・課題文に関する必要事項を調べながら自分の考えをまとめる（90分） 事後学習： ・重要な用語の復習をする（20分） ・Googleフォームに取り組みながら、授業内容に関する理解や自分の考えをさらに深める（60分） ・関連する内容についてさらに調べたり身近な人と意見交換したりする（30分）
指導方法	授業は主に一つのテーマにつき次の流れで学びながら理解を深めていく。①各自での課題文の読み込み・資料調べ・ワークシート作成 ②グループ内でのディスカッション ③全体での発表 ④補足説明 ⑤問いづくり ⑥意見のまとめとシェア。

	最終的には、授業で扱ったテーマのなかから1つを選び、プレゼンテーションにて自らの意見をまとめる。 フィードバックの方法： ・ディスカッションについては学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室あるいはGoogle Classroom上にて行う。 必要に応じて個々にコメントする。 ・Web上での確認テストは、受験後に正解を提示する。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：提出物、最終課題、授業貢献度にて評価する。 D：提出物、最終課題、授業貢献度にて評価する。 提出物 60%、最終課題（プレゼンテーション）25%、授業貢献度（発言内容など）15%
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	松田健『テキスト現代社会学 第4版』ミネルヴァ書房, 2022 本田由紀『現代社会論——社会学で探る私たちの生き方』有斐閣ストゥディア, 2015 岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 小杉礼子・宮本みち子編著『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 他
履修上の注意	時事問題が得意でないが理解を深めたいと考えている学生、ディスカッションは得意でないがその力を伸ばしたいと考えている学生の参加も歓迎する。理解を深めること、ディスカッションスキルを伸ばすこと、その両方を目標に履修して欲しい。 テーマごとの課題に充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G16C21			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 物質の構成や結合を理解し、化学の基本となる物質の考え方を身につける。化学反応式を理解し、中和反応や酸化還元反応を学ぶ。また、有機化学は炭素を中心とした独特の世界が広がっており、生命現象の根本となる有機化学をわかりやすく説明していく。高校で理論化学や有機化学を履修しなかった場合にも対応できるように行っていく。演習も重要視する。 (授業目標) ◎C：化学の知識を使って、ミクロな物質の仕組みを理解する。 ○D：モルを理解し、有機化学を系統立てて理解する。
授業計画	<p>1 周期表 化学に親しむために、周期表に関することを学ぶ。(個人の発表)</p> <p>2 物質と原子：物質の成分、構成要素 純物質と混合物、原子や分子、原子内の電子配置を学ぶ。</p> <p>3 価電子、原子量・分子量 最外殻電子や、原子量について学ぶ。</p> <p>4 化学結合 イオン結合や共有結合について学ぶ。</p> <p>5 物質の三態 物質の状態変化について学ぶ。</p> <p>6 物質量 モルについて学び、演習を通し理解を深める。</p> <p>7 化学反応と化学反応式 化学反応式について理解する。</p> <p>8 酸・塩基、中和 酸と塩基の強弱や、中和反応を理解する。</p> <p>9 酸化還元反応 酸化数や還元数について理解し、酸化・還元剤の知識を修得する。</p> <p>10 炭素の結合について 有機化学の根本となる炭素の性質について理解する。</p> <p>11 官能基と異性体 主要な官能基を覚え、異性体を理解し演習を行う。</p> <p>12 脂肪族炭化水素、アルコール 二重結合や三重結合の知識を修得し、アルコール類の種類や性質を学ぶ。</p> <p>13 糖質の化学 三大栄養素の1つである糖質を学ぶ。</p> <p>14 脂質の化学 三大栄養素の1つである脂質を学ぶ。</p> <p>15 タンパク質の化学 三大栄養素の1つであるタンパク質を学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：化学の知識を使って計算問題を解くことができる。 ○D：化学の単位を理解し、炭素の性質等を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストや参考書を読み関連のある箇所について学ぶ(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストに従って授業を進める。また、随時プリントを配布し、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：化学の知識や計算問題について定期試験で評価する。 D：モルや有機化学等を定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版編集部編(数研出版)

参考書	
履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G16C22			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 細胞・生殖・遺伝現象や、生物の成り立ちと種族維持の仕組みについて理解し、生命の連続性の見方や考え方を身につける。ヒトの体を知ることは生物学の本質であるが、その不思議なメカニズムや働きを知り、生命の大切さや尊厳について学ぶ。また、生物の進化や今地球上でどのような問題が起こっているのかについても焦点を充てる。 (授業目標) ◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題への思考力を身につける。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて理解する。
授業計画	1 植物と動物 さまざまな生き物の特性を学ぶ。(発表) 2 ゴリラの生活と生態 ヒトとほとんどDNAに近いゴリラについて考える。 3 生命の起源と進化と古細菌 生命の起源や、進化の過程を理解する。 また、生命の故郷・海について考える。(グループ発表) 4 細胞 ミクロの世界の現象を考える。 5 細胞膜 細胞膜の特殊な魅力を考える。 6 生殖と遺伝 さまざまな生殖の特色を学ぶ。メンデルの法則や、遺伝について学ぶ。(グループ発表) 7 芝公園における植物観察(フィールドワーク) 校外実習(植物観察を行いレポートを提出する) 8 ヒトの体 ヒトの体の絶妙な仕組みについて学ぶ。(グループ発表) 9 五感(目・耳・舌・鼻・皮膚) 五感の働きについて理解する。 10 酸素と呼吸(有機物の分解) 嫌気呼吸と好気呼吸の仕組みについて理解する。(グループ発表) 11 光合成(有機物の生成) 有機物の生成について理解する。 12 血液とホルモン 体内環境と体液について学ぶ。(グループ発表) 13 脳(神経の働き) 刺激と受容や、神経系について学ぶ。 14 DNA DNAの構造や、DNAの複製を理解する。(グループ発表) 15 地球環境問題 森林衰退や地球温暖化について考える。(グループ発表)
学習成果・到達目標・基準	◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題について考え実践することができる。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストやプリントに従って授業を進める。また、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：生物の知識を使って、生命の本質の理解についてレポートで評価する。 D：生物学を系統立てて考えられるかをレポートで評価する。 レポート80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』数研出版編集部編(数研出版)
参考書	

履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表や、グループ発表がある。また、フィールドワークがある。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G16C23			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宇宙や地球レベルの話から個々の生活レベルの話まで範囲は広がるが、一つひとつは物質と生命との相互作用で繋がっていることを理解する。また、地球の自然が作られた歴史や物質や生命の歴史を辿り、人間活動との関わりの理解を深める。更に、データサイエンスや、心の問題にも焦点を充て、グローバルかつローカルな環境と人間に係わる問題を考える。 (授業目標) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題を地理や歴史と体系立てて理解することができる。
授業計画	<p>1 生きている地球 地球上の季節の変化や、生命の営みについて理解する。</p> <p>2 アリストテレスの四元素と暦 星座や、二十四節気について理解する。</p> <p>3 星と太陽系の惑星 星や太陽系の惑星の知識を修得し、かけがえのない地球を考える。(グループ発表)</p> <p>4 地球の歴史 地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 酸素とオゾン 生活環境で絶対に必要な酸素について考え、オゾンの知識を習得する。(グループ発表)</p> <p>6 水 身近な水について考える。</p> <p>7 データサイエンスの演習 ビッグデータを用いて、データ解析の楽しさを学ぶ。(グループ発表)</p> <p>8 心のエネルギーの活性 心の問題を、古典から解き明かし学ぶ。</p> <p>9 日本の世界遺産 日本の誇るべき世界遺産について学ぶ。(グループ発表)</p> <p>10 地球温暖化について 化石燃料とエネルギー問題、地球温暖化による生態系への影響を理解する。</p> <p>11 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>12 世界や日本の河川と身近な河川 世界や日本の河川について学び、川の水質について調べる。</p> <p>13 人間の歴史と公益(ゲスト講師) ゲスト講師が、人間の歴史と公益の観点から講義を行う。</p> <p>14 生物の寿命とメス・オス ヒトや他の生命の寿命を考え、メスとオスの役割を認識する。</p> <p>15 地球レベルと個々の生活(グループ発表) Think globally, act locally.</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習；プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習；配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、科学等のテーマでグループ発表を行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：環境の問題について定期試験で評価する D：環境について定期試験で評価する 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考書	『地球環境化学入門・改訂版』J.E. アンドリュース著、渡辺正翻訳(丸善出版)

履修上の注意	記入式のプリントを配布する。 講義を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行う。
アクティブ・ラーニング	グループ発表がある。また、フィールドワークがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、中村公子（契約講師：小山洋行）、野地実穂、桑原七海			
ナンバリング：G17C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。
授業計画	1 ガイダンス ・本授業概要と他の科目との関係について ・Gmailの使い方、メールの作法（教員へのメール文例、「署名」の設定など） ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのパスワード大丈夫？」 2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ ・アクティブポータル、設定と操作 ・Zoomの利用方法や、画面の共有方法 ・MS Officeのインストール（希望する場合に大学のライセンスでインストール） ・情報セキュリティ動画視聴「あなたの書き込みは世界中でみられている」 3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ ・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習 ・Google Classroomと教材・課題のDLの方法と提出方法 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォン乗っ取り（デモ）」 4 Google DriveとSlide ・Google Driveの仕組みや共有の注意点 ・Google Slideの作成と共有方法 ・Google keepでToDoリストをつくる ・情報セキュリティ動画視聴「その警告メッセージ、信じて大丈夫」 5 Google DocumentとSpreadsheet ・Google Documentの作成と共有方法 ・Google Spreadsheetの作成と共有方法 ・Google formの使い方、QRコードを生成、アンケートを取る方法 ・情報セキュリティ動画視聴「乗っ取りの危険性があなたのスマホに」 6 MS Office ・アプリの起動とファイル（Word、Excel、PowerPoint）の新規作成 ・ファイル操作とフォルダ管理 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、出会い系サイト」 7 MS PowerPoint 1 ・新規作成 ・テーマの適用 ・プレースホルダー ・箇条書きテキスト ・スライドの実行 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 8 MS PowerPoint 2 ・オブジェクトの挿入 ・スライドの構成の変更 ・画面切り替え効果の設定 ・アニメーションの設定 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、SNS」 9 MS PowerPoint 3 ・PowerPoint演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「大丈夫、あなたのスマートフォン」 10 MS Excel 1 ・新規作成 ・データの入力 ・保存 ・罫線の設定 ・数式の入力

	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」 <p>11 MS Excel 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表示形式の設定 ・列幅の変更 ・書式のコピー ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのスマートフォン、ウイルスが狙っている」 <p>12 MS Excel 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelによる情報分析 ・グラフの活用 ・Excel演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォンのワンクリック請求」 <p>13 MS Word 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・配置の設定 ・フォントの設定 ・段落番号と箇条書き ・文字数と行のカウント ・保存 ・情報セキュリティ動画視聴「デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」 <p>14 MS Word 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の挿入 ・SmartArtグラフィック ・表の作成 ・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける ・情報セキュリティ動画視聴「陽だまり家族とパスワード」 <p>15 MS Word 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表番号の設定 ・ページ罫線 ・ワードアート ・段組み ・タブとリーダー ・PDFファイルとして保存 ・Word演習問題（最終課題）
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E：Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。特に新しいアプリケーションを使用する回の前には、自宅のPCで該当するアプリケーションが正しく起動するかを必ず確かめる。(30分)</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(30分)</p> <p>事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。必要に応じてタッチタイピングの練習も行うこと。(30分)</p>
指導方法	<p>対面授業にて、スライド資料と講義動画で講義を進める。</p> <p>毎回、様々な課題が課され、その提出をもって出席とする。</p> <p>メールでの質問は随時受け付ける。</p> <p>演習は、パソコンの操作を中心に進める。</p> <p>文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。</p> <p>同様にGoogle Document、Spreadsheet、Slideの使い方の演習も行う。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義（オープンエデュケーション利用）も行われる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>E：Google Document、Spreadsheet、Slide、Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>課題提出60%、最終課題40%</p>
テキスト	授業内で動画等教材を配布する
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修上の注意	毎回、PCおよびスマートフォンを使用した演習となるので、忘れずに携帯すること。 1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休まないようにすること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：小倉秀雄）			
ナンバリング：G17C25	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>（授業概要） PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要とされている。また学生生活においてもレポート、課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 365&2019」のテキストを使用し、文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習していく。その他、PC操作についての基本も学ぶ。</p> <p>（授業目標） ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関する共同作業について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明	
	2	データの準備 文字・段落・セクションの挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） データの準備 Word スキルチェックシート 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 1	
	3	文字・段落・セクションの挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 文字列や段落の書式を設定する 2 文書にセクションを作成する、設定する	
	4	表やリストの管理 1（実習：PCによる演習） 表を作成する 表を変更する	
	5	表やリストの管理 2（実習：PCによる演習） リストを作成する、変更する 表やリストの管理	
	6	参考資料の作成と管理 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 1	
	7	参考資料の作成と管理 2 グラフィック要素の挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 参照のための一覧を作成する、管理する 図やテキストボックスを挿入する 1	
	8	グラフィック要素の挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 図やテキストボックスを挿入する 2 図やテキストボックスを書式設定する 1	
	9	グラフィック要素の挿入と書式設定 3（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを書式設定する 2 グラフィック要素にテキストを追加する グラフィック要素を変更する	
	10	文書の共同作業の管理：（実習：PCによる演習） コメントを追加する、管理する 変更履歴を管理する 文書の共同作業の管理：確認問題	
	11	文書の管理 1（実習：PCによる演習） 文書内を移動する 文書の書式を設定する	
	12	文書の管理 2（実習：PCによる演習） 文書を保存する、共有する 文書を検査す	
	13	第1回試験対策講座（実習：PCによる演習） MOS 365&2019の試験形式、画面構成と試験環境の説明 MOS 365&2019攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	
	14	第2回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う	

	15 第3回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関し、共同作業ができる。
事前・事後学習	事前学習：MOS模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作については、事後学習で各自補完すること。また、各出題範囲の終了後に出題される課題を解答することで、操作方法を確実に習得すること。 (60分)
指導方法	パソコンを操作する実習（講師が、まず、テキストに沿って操作内容を解説・実演し、学生は講師の操作を参考に各自のPCで演習を行う）が中心である。 各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にする目的で、課題を操作し、結果の提出をしてもらう。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成・管理に関し共同作業に関する操作の評価を行う。 また、各課題への提出およびその採点結果を総合して成績評価を行う。 尚、採点の割合は、課題提出：30%、課題点：70% とする。 MOS Word 365&2019 の合格認定により、成績評価を1ランクアップする。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 試験は、試験会場のPC (Windows10 Word2019) で行われている。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	受講者は授業に使用する、次の条件を満たすPCを用意する必要がある。 1. PCのOSは【Windows】（Windows 10 日本語版（Windows 10 Sモードでは動作しない）、またはWindows11 日本語版） ※使用テキストに付属のプログラムが、Windowsのみ対応となっているため。 2. 演習で使用する ワード（Microsoft Office Word と同一バージョンのアプリ（Microsoft Word 365または2019））が各自のPC上にインストールされていること ※授業に際し、テキストは必携 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提。 他のMOS資格（Excel、PowerPoint）の受験も視野に、計画的な学習をすること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
布施梓			
ナンバリング：G17C26			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Excel 365&2019」の出題範囲にそってExcelの機能を学習する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：ワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入・編集、データ分析について、MOS Excel 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	1 ガイダンス／ワークシートやブックの管理（1） ・MOS Excel 365&2019の出題範囲の説明 1-1-1 ブック内のデータを検索する 1-1-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-1-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 1-1-4 既存のブックにワークシートを追加する 1-1-5 ワークシートをコピーする、移動する 2 ワークシートやブックの管理（2） 1-2-1 ページ設定を変更する 1-2-2 ヘッダーやフッターをカスタマイズする 1-2-3 行の高さやの幅を調整する 1-3-1 ブックの表示を変更する 1-3-2 ワークシートの行や列を固定する 1-3-3 ウィンドウの表示を変更する 3 ワークシートやブックの管理（3） 1-3-4 ブックの基本的なプロパティを変更する 1-3-5 数式を表示する 1-3-6 クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 1-4-1 印刷設定を行う 1-4-2 印刷範囲を設定する 1-4-3 別のファイル形式でブックを保存する 4 ワークシートやブックの管理（4） 1-4-4 ブック内の問題を検査する 1-4-5 ブック内のアクセシビリティの問題を検査する 1-5-1 テキストファイルからデータをインポートする 1-5-2 .csvファイルからのデータをインポートする 5 セルやセル範囲のデータの管理（1） 2-1-1 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-2 形式を選択してデータを張り付ける 2-2-3 セルを結合する、セルの結合を解除する 2-2-4 数値の書式を適用する 6 セルやセル範囲のデータの管理（2） 2-2-5 ≪セル書式設定≫ダイアログボックスからセルの書式を適用する 2-2-6 書式のコピー／貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する 2-2-7 セルのスタイルを適用する 2-2-8 セルの書式設定をクリアする 7 セルやセル範囲のデータの管理（3） 2-3-1 名前付き範囲を定義する 2-3-2 テーブルに名前を付ける 2-4-1 スパークラインを挿入する 2-4-2 組み込み条件付き書式を適用する 2-4-3 条件付き書式を削除する 8 テーブルとテーブルのデータの管理（1） 3-1-1 セル範囲からExcelのテーブルを作成する 3-1-2 テーブルにスタイルを適用する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する 3-2-1 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する 3-2-3 集計行を挿入する、設定する 3-3-1 複数の列でデータを並べ替える 3-3-2 レコードをフィルターする 9 数式や関数を使用した演算の実行（1） 4-1-1 セルの相対参照、絶対参照、複合参照を追加する 4-1-2 数式の中で名前付きや範囲やテーブル名を参照する

	<p>4-2-1 SUM、AVERAGE、MAX、MIN関数を使用して計算を行う</p> <p>4-2-2 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK関数を使用してセルの数を数える</p> <p>数式や関数を使用した演算の実行（2）</p> <p>4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-2 UPPER、LOWER、LEN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-3 CONCAT、TEXTJOIN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>11 グラフの管理（1）</p> <p>5-1-1 グラフを作成する</p> <p>5-1-2 グラフシートを作成する</p> <p>5-2-1 ソースデータの行と列を切り替える</p> <p>5-2-2 グラフにデータ範囲（系列）を追加する</p> <p>5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する</p> <p>12 グラフの管理（2）</p> <p>5-3-1 グラフのレイアウトを適用する</p> <p>5-3-2 グラフのスタイルを適用する</p> <p>5-3-3 アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する</p> <p>13 試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOSの試験形式や攻略ポイントの説明 <p>14 試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回模擬試験の実施とポイント解説 <p>15 試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回模擬試験の実施とポイント解説
学習成果・到達目標・基準	◎E：Excelを使用して、基本的なワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入ができる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。（30分） 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。（30分）
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：複数回の確認テストの合計で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 （MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる） 確認テスト100%
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集（FOM出版）
参考書	特になし
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。自身のPC持参が必要であり、さらに「Office 2019 日本語版」または「Microsoft 365 日本語版」がインストールされている必要がある。 学習者の事前スキル、理解度、学習効率の観点で、学習内容の進め方や順番が変更になる場合がある。本授業では、Windows対応ソフトでの学習となるため、Macの場合は多少不便さがあることを理解した上で受講すること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
大久保成			
ナンバリング：G17C27			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スマホのフリック入力の方が手書きより速い、という人はいると思います。では、絵を描くのは？映像を作るのは？難しい操作になるほど、ツールでできることだけやるとなっていませんか？これはいわばツールに使われている状態です。そうではなく、「私たち」がデジタルツールを使いましょう。小さなできることを組み合わせて（プリコラーージュ）複雑なものを組み上げていきましょう。</p> <p>この講義では楽しんでITツールを使いこなすということを目標にします。しかし使いこなすためには、時に反復練習や新しいことへの挑戦が必要です。そこで、みなさんにとって身近なメディアのひとつである動画を題材に、TikTokやInstagramを活用して、デジタルコミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>(授業目標) 動画系SNSおよびウェブサイト制作を通じて、デジタルコミュニケーション能力のさらなる育成を目指します。</p> <p>◎E：スマートホン（以下、スマホ）とPCを連携させ、各種映像編集ツールを使いこなし、求められている課題全てを提出する ◎B：第三者にも分かるように自らの感性を言語化し、ウェブページをポートフォリオとして完成させる</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 講義内容、講義の進め方などの説明、連絡用ツールの設定</p> <p>2 お気に入りの動画を紹介する 各人が「流行っている」と思う動画を持ち寄り分析する</p> <p>3 編集ツール入門 映像編集のツールを整える。基本操作を学ぶ</p> <p>4 編集技法（1） お手本を模倣することで、編集技法の実際を体験する</p> <p>5 編集技法（2） （1）と同様だが、別のお手本を使用する</p> <p>6 作品制作への準備 受講生はこのあと実施する作品の「お題」を持ち寄り、議論する 後半で作品1を制作し始める</p> <p>7 作品制作（1） 作品1の講評と作品2の制作</p> <p>8 作品制作（2） 作品2の講評と作品3の制作</p> <p>9 作品制作（3） 作品3の講評と作品4の制作</p> <p>10 作品制作（4） 作品4の講評と作品5の制作</p> <p>11 作品制作（5） 作品5の講評と次回の準備</p> <p>12 ウェブサイト構築（1） 発表された動画作品をウェブサイトにとまとめる</p> <p>13 ウェブサイト構築（2） ウェブサイトポートフォリオとして活用できるように充実させる</p> <p>14 ウェブサイト構築（3） 制作したウェブサイトをもとに最終課題として提出</p> <p>15 まとめ、講評 担当教員による講評。講義のまとめ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：動画系SNSに制作した作品を半数以上公開する ◎B：動画をまとめたウェブサイトを作成する
事前・事後学習	事前学習 動画系SNSを巡回し、トレンドを学ぶ。次回講義の準備（提案）をする（1時間） 事後学習 作品を完成させ、公表する（2時間）
指導方法	講義はパワーポイントを使用します。また各種動画系SNSを利用します。デジタルツール（Discordを予定していますが、初回に受講生の希望をきき決定します）を用いて、教室の内外での積極的な参加を促します。デジタルツールを用いることで、人前で発表するのが苦手な学生でも、積極的に講義に参加できるようになると期待しています。また講師からのフィードバックもデジタルツール上で行

	い、配慮を要する個別の質疑以外は、クラス内で情報共有できるようにします。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎E：作品の公開数を評価します ○B：動画作品をまとめたウェブサイトの完成を必須とし、その内容を評価します 動画課題の提出：50%、ポートフォリオサイトの作成/提出：20%、授業態度30%
テキスト	独自資料をもちいます。希望に応じて可能な範囲で講義資料を共有します。
参考書	講義内で必要に応じ提示します
履修上の注意	PCの持参、スマホの持参が必須です。両者がないと講義の受講ができません。 SNSへのサインイン、アプリの導入を行います。アプリ等はできる限り無料の範囲で活用できるように配慮します。ペアレンタルコントロールなどは外しておいて下さい。スマホのバックアップ手段を必ず確保して下さい。学外で撮影することもあると思います。通信容量も可能な限り確保しましょう。 自分自身を被写体として使う実習があります。TikTokやYouTubeなどを利用しますので、いわゆる「顔出し」やSNS投稿に抵抗のある方の受講はお勧めしません。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク PCとスマホを使った演習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G18C28			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。 他者と協働することの意義や楽しさを体得できるよう、球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ◎E：球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介 2 球技①基礎（実習：ドッジボール） ストレッチ、ドッジボール（基礎練習） 3 ニュースポーツ①基礎（実習：ドッジビー） ストレッチ、バドミントン（基礎練習） 4 球技②基礎（実習：バドミントン1） ストレッチ、バドミントン（基礎練習） 5 球技②応用（実習：バドミントン2） ストレッチ、バドミントン（ゲーム） 6 球技③基礎（実習：ソフトバレー1） ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習） 7 球技③応用（実習：ソフトバレー2） ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム） 8 ニュースポーツ②（実習：インディアカ1） ストレッチ、インディアカ（基礎練習） 9 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ2） ストレッチ、インディアカ（ゲーム） 10 ニュースポーツ③基礎（実習：ユニホック） ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム） 11 球技④基礎（実習：ポートボール） ストレッチ、ポートボール（基礎練習、ゲーム） 12 球技⑤基礎（実習：卓球1） ストレッチ、卓球（基礎） 13 球技⑤応用（実習：卓球2） ストレッチ、卓球（ゲーム） 14 ニュースポーツ④基礎（実習：ポッチャ） ストレッチ、ポッチャ（基礎練習、ゲーム） 15 ニュースポーツ⑤基礎（実習：キンボール） ストレッチ、キンボール（基礎練習、ゲーム）
学習成果・到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ◎E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	実技演習 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームでの感想を総合的に評価し、授業時に返却する。 質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードやGoogleフォームでの提出物に対する取り組みを評価する。 E：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
飯名寛子			
ナンバリング：G18C29			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介紹介 2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(ウォームアップ) 3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ1) 4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ2) 5 リズムダンス③（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 6 リズムダンス④（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 7 リズムダンス⑤（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 8 リズムダンス⑥（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 9 リズムダンス⑦（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 10 リズムダンス⑧（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 11 リズムダンス⑨（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 12 グループ創作1（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（構成作り）（ICT：iPad） 13 グループ創作2（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（振り作り）（ICT：iPad） 14 グループ創作3（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad） 15 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表（ICT：iPad）
学習成果・到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動いたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリー等は外すこと。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク：実習、創作

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
鈴木薫子			
ナンバリング：G18C29			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介紹介 2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(ウォームアップ) 3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ1) 4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ2) 5 リズムダンス③（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 6 リズムダンス④（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 7 リズムダンス⑤（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 8 リズムダンス⑥（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 9 リズムダンス⑦（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 10 リズムダンス⑧（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 11 リズムダンス⑨（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 12 グループ創作1（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（構成作り）（ICT：iPad） 13 グループ創作2（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（振り作り）（ICT：iPad） 14 グループ創作3（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad） 15 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表（ICT：iPad）
学習成果・到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動いたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリー等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク：実習、創作

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
澁木祥子			
ナンバリング：G18C30			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。様々なスポーツ種目の基礎技術を修得し、ゲームを実施する。ダンスにおいては、基礎的なステップを修得し、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。ゲームやダンスを通して、自身にあった生涯スポーツやダンスを発見し、楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実施期間：5日間（土曜日） 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動を見つけ、参加することができる。 ◎E：修得した基礎技術を使用して、ゲームやダンスができる。
授業計画	<p>1 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ） 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー</p> <p>2 ニュースポーツ①基礎（実習：グランドゴルフ） グランドゴルフ（基礎練習）</p> <p>3 ニュースポーツ①応用（実習：グランドゴルフ） グランドゴルフ（ゲーム）</p> <p>4 体づくり運動（実習：エクササイズ・エアロビクスダンス） ストレッチ、エクササイズ、エアロビクスダンス</p> <p>5 ニュースポーツ②基礎（実習：インディアカ） インディアカ（基礎練習）</p> <p>6 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ） インディアカ（ゲーム）</p> <p>7 体づくり運動（実習：体ほぐし・エアロビクスダンス） 体ほぐし、ストレッチ、エアロビクスダンス</p> <p>8 ダンス（実習：リズムダンス） ダンス（ステップ練習、フレーズ練習）</p> <p>9 球技①基礎・応用（実習：ポートボール） ポートボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>10 体づくり運動（実習：体ほぐし・ストレッチ） 体ほぐし、ストレッチ、ドッジビー</p> <p>11 ラケット種目①基礎（実習：卓球） 卓球（基礎練習）</p> <p>12 ラケット種目①応用（実習：卓球） 卓球（ゲーム）</p> <p>13 体づくり運動（実習：ストレッチ・エクササイズ） ストレッチ、エクササイズ</p> <p>14 ニュースポーツ基礎③（実習：キンボール） キンボール（基礎練習）</p> <p>15 ニュースポーツ③応用（実習：キンボール） キンボール（ゲーム）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身に付けることができる。 ◎E：各種スポーツ、ダンスの基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。（30分程度） 事後学習：授業内で実施したスポーツ種目と、自身の日常生活との関わり方について考える。（30分程度）
指導方法	1) 準備運動として、ストレッチやエクササイズ（エアロビクスダンス）を行い、その日の体調を確認する。 2) 各々のスポーツ種目やダンスの基礎技術を練習し、修得する。 3) ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ダンスの場合は、リズムに合わせて踊れるよう練習する。 4) 生涯にわたって楽しく続けられるスポーツ技術、運動能力を身に付けるにはどのような工夫が必要か考えさせ、それらをゲーム（ダンス）のルールに適用させて、ゲーム（ダンス）を行う。 フィードバックの方法：実技や技能カード等を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：積極的にスポーツ・ダンスを実施しているか、チームにおける貢献度と受講態度、また技能カード等の提出物に対する取り組みを評価する。 ◎E：各種目における技能を評価する。

	チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日） 実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子（契約講師：David Pipe）、玉川明日美			
ナンバリング：G19A31			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標) ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける</p> <p>(Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける (Listening and Speaking Class) B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics (日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける)</p>
授業計画	<p>1 Course Orientation, Basic English Review Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Why Do We Wear Clothes? Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities</p> <p>2, 3 RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? RW: Clothes for important days / Clothes for every day / Looking good Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>2, 3 LS: General English & ESP General English: Discuss Skills and Abilities ESP: Garments; Colours</p> <p>4, 5 RW: Unit 2 The History of Clothes RW: Making clothes / Making fabrics Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>4, 5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Fabric Types</p> <p>6, 7 RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics, Unit 5 Fabrics Silk / Cotton / Wool / Synthetic Fabrics Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>6, 7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Fabric Patterns</p> <p>8, 9 RW: Unit 5 Unit 3 The Language of Clothes Traditional costume Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>8, 9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Garment Creation</p> <p>10, 11 RW: Unit 3 The Language of Clothes, Unit 6 The Clothing Industry Designers, Buyers, Factory workers, Sales clerks Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>10, 11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Product Promotion and Marketing</p> <p>12, 13 RW: Unit 6 The Clothing Industry The supply chain Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>12, 13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Fashion Displays</p> <p>14, 15 RW: Unit 8 Crazy Clothes Fashions shows, Fashion victims, Street fashion Google Classroom: 小テスト・課題</p> <p>14, 15 LS: Role-Play Presentations</p>

Role-Play Presentations & Course Wrap-up	
学習成果・到達目標・基準	<p>○B：場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E：英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D：自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。</p> <p>(RW) E：スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D：語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B：Use a variety of grammar structures in spoken English D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学修が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。)</p> <p>事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)</p>
指導方法	<p>2週目よりRWとLSを1週交代に行う。</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却</p> <p>(LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) E：各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D：小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LS) B・D：Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) Clothes Then and Now Richard Northcott (2018) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	<p>グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>プレゼンテーション ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション (LS 13-15週)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子（契約講師：Kevin Oyama）、玉川明日美			
ナンバリング：G19A32			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 （授業目標） ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける （Reading and Writing Class） E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける （Listening and Speaking Class） B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics （日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける）
授業計画	1 Course Orientation Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Unit 1 Food for life: About Nutrition Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities 2,3 RW: Unit 1 Food for life Nutrients Google Classroom: 小テスト・課題 2,3 LS: General English & ESP General English: Discuss Personal Skills and Abilities ESP: Food; Food Groups 4,5 RW: Unit 1 Food for life / Digestion Nutrients, Digestive system and organs Google Classroom: 小テスト・課題 4,5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Food Preparation 6,7 RW: Digestion Digestive system and diseases Google Classroom: 小テスト・課題 6,7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Weights and Measures 8,9 RW: Unit 3 Food origins Origins of chocolate and potato chips Google Classroom: 課題 8,9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Essential Macronutrients and their Sources 10,11 RW: Unit 4 Typical Dishes Traditional food around the world Google Classroom: 小テスト・課題 10,11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Essential Micronutrients and their Sources 12,13 RW: Unit 4-7 & Group Presentation Research and presentation about typical food in the world Google Classroom: 課題 12,13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Food Labels 14,15 RW: Unit 8 Giving thanks Food and events Google Classroom: 小テスト・課題

	14, 15 LS : Role-Play Presentations Role-Play Presentations & Course Wrap-up
学習成果・ 到達目標・基準	○B : 場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E : 英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D : 自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。 (RW) E : スキミングやスキニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。 (LS) B : Use a variety of grammar structures in spoken English D : Understand and use vocabulary related to their particular area of study
事前・事後学習	事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習事項に関する振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。) 事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)
指導方法	2週目よりRWとLSを1週交代に行う。 (RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法: 課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却 (LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	(RW) E : 各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D : 小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50% (LS) B・D : Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20% *最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。
テキスト	(RW) Food Around the World Robert Quinn (2010) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラー ニング	ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子			
ナンバリング：G19C33			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 英語4技能（読む・書く・聞く・話す）のすべての基本となる文法を基礎から学びなおし、相手に正しく伝えられる英文を表現できるよう、理解と演習を繰り返す。また、TOEICや英検等で問われる知識から学習をすすめ、得点アップにつなげる。 (授業目標) ○D：言葉の規則を理解し、適切に使用できるようになる。 ◎E：相手に正確に伝わる英語を表現するのに必要な文法力を身につける。
授業計画	<p>1 形容詞と副詞 quick/quicklyや、well, fast, late, hard/hardlyなど形容詞と副詞の区別と使い分け (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>2 形容詞と副詞 形と語順 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>3 形容詞と副詞 形と語順 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>4 名詞・代名詞 可算名詞と不可算名詞、単数・複数 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>5 名詞・代名詞 さまざまな代名詞と限定詞 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>6 動詞と時制 完了形と過去形 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>7 動詞と時制 完了形、未来形 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>8 動詞と文型 知覚動詞と使役動詞 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>9 動詞と文型、助動詞 助動詞の種類と使い方 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>10 動名詞と不定詞 動詞+-ing、動詞+to不定詞 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>11 動名詞と不定詞 動名詞と不定詞の応用 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>12 接続詞 さまざまな接続詞と使い方 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>13 接続詞 接続詞と前置詞、接続詞と動詞の時制 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>14 関係詞 主格・所有格・目的格 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p> <p>15 関係詞 継続用法 (ICT：スマホ/PC 小テスト)</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：品詞や時制などの文法事項の定着をはかり、各種英語試験の得点アップを図る。 ◎E：学んだ文法の知識を使い、英語での発信力を高める。
事前・事後学習	事前学習 あらかじめテキストの解説ページを読み、基礎知識を入れたうえで授業に臨むよう準備する。小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。(約30分)

	事後学習 授業時に課されたワークや課題に取り組み、内容の定着を図る。(約60分)
指導方法	解説は最低限にとどめ、演習を重視する。授業だけにとどまらず、課題としても問題演習を課す。より多くの問題を解くことで知識の定着を図る。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説、コメントまたは添削物の返却。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：小テストや課題の達成度、発表等で評価する。 E：ワークや課題、定期テストで評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%
テキスト	マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 第4版(2017) Raymond Murphy著 Cambridge University Press
参考書	適宜授業の際に指示する
履修上の注意	全ての英語の基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：Kevin Oyama）			
ナンバリング：G19C34			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 道案内やお土産の提案など、外国人観光客とのコミュニケーションにおいて求められる英語を学びます。会話表現や文法に加え、日本文化を説明するための語彙や表現も学び、ロールプレイ等を通して実際に練習します。 （授業目標） ◎E：外国人観光客とコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を正しく理解し、アクティビティの提案や的確な補助ができる。 ○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を正しく理解し、英語で説明できる。
授業計画	1 Topic A: Streets and Buildings - giving directions to a location (アクティブラーニング：グループワーク) 目的地までの行き方やかかる時間について説明する 2 Topic B: Public Transportation - explaining transportation systems (アクティブラーニング：グループワーク) バス等の公共交通機関の使い方について説明する 3 Topic C: Around Town - responding to requests from travelers (アクティブラーニング：グループワーク) 英語が使えるか、写真撮影ができるか等、旅行客からの依頼に対応する 4 Topic D: Restaurants - explaining meals and taste (アクティブラーニング：グループワーク) 食べているものや味について尋ねられた時に対応する 5 Topic E: Problems - offering assistance to travelers / Assessed Role-Play 1 (アクティブラーニング：ロールプレイ) 落とし物を探すお手伝いや補助が必要な旅行客に対応する、ロールプレイ作成・練習・発表(1回目) 6 Topic A: Streets and Buildings - giving advice on tourist attractions (アクティブラーニング：グループワーク) 観光名所やレストランをお勧めする 7 Topic B: Public Transportation - helping travelers on the train (アクティブラーニング：グループワーク) 電車の停車駅や乗り換え等について説明する 8 Topic C: Around Town - assisting travelers in town (アクティブラーニング：グループワーク) 日本の特産品や日本固有の品物の使い方等について説明する 9 Topic D: Restaurants - giving advice on meals (アクティブラーニング：グループワーク) 食事の食べ方やおすすめの食べ物・料理について説明する 10 Topic E: Problems - offering help in emergencies (1) / Assessed Role-Play 2 (アクティブラーニング：ロールプレイ) 旅行客が怪我をした時など、助けが必要な際に対応する、ロールプレイ作成・練習・発表(2回目) 11 Topic A: Streets and Buildings - offering help for everyday necessities (アクティブラーニング：グループワーク) お土産屋や携帯電話、WiFi等、旅行に必要なツールやサービスの受け方を説明する 12 Topic B: Public Transportation - getting the correct tickets (アクティブラーニング：グループワーク) 空席照会の方法や席の種類等について説明する 13 Topic C: Around Town - explaining how to read Kanji and public notices (アクティブラーニング：グループワーク) 漢字の読み方や看板等の公共掲示について説明する 14 Topic D: Restaurants - explaining about restaurant rules (アクティブラーニング：グループワーク) 喫煙の可否や注文方法等について説明する 15 Topic E: Problems - offering help in emergencies (2) / Assessed Role-Play / course wrap-up (アクティブラーニング：ロールプレイ) 急な体調不良等、緊急事態の際の対応、ロールプレイ作成・練習・発表(3回目)、まとめ

学習成果・到達目標・基準	<p>◎E：外国人観光客と基本的なコミュニケーションを取り、もてなすことができる。</p> <p>◎E：外国人観光客の要望を理解し、適切な補助ができる。</p> <p>○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。</p> <p>○D：日本の文化やエチケット、習慣を理解し、英語で説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>(事前学習) 次課の教材を読みわからない語彙の意味を調べる (15分)、ロールプレイの準備 (15分) Read the materials for the next lesson and look up any unknown words (15 minutes). Prepare for the assessed roleplays. (15 minutes)</p> <p>(事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Review target language studied in class. (30 minutes)</p>
指導方法	<p>この科目は、5つのテーマ (道案内、公共交通機関、街中での会話、飲食店、トラブルシューティング) で1サイクルになっており、1学期の中で3サイクル実施します。2サイクル目以降は、前サイクルの復習を含めます。5回目、10回目、15回目授業内でロールプレイを実施します。授業内で扱ったトピックをもとにロールプレイを作成・発表し、原稿と発表のパフォーマンスを評価します。</p> <p>The course is divided into three cycles of five lessons. Each five-lesson cycle includes one lesson on the following five topics: Streets and Buildings (giving directions, recommendations, giving information, etc.), Public Transportation, Around Town, Restaurants and Problems. Each lesson of a new cycle incorporates review material from the previous cycle.</p> <p>[Role-plays] Students will be assessed every five lessons through role-plays. They may choose a topic from the 5 topics within that particular five-week segment, and are assessed both for both role-play script-writing and enactment.</p> <p>フィードバックの方法：ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行います。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。</p> <p>D：小テストや定期試験で評価する。</p> <p>Role-play presentations (ロールプレイ発表) 30%</p> <p>Role-play writing (ロールプレイ プレゼンテーション スクリプトの作成) 10%</p> <p>Final exam (定期試験) 40%</p> <p>Participation (授業内外での貢献度) 20%</p>
テキスト	授業時に適宜プリントを配布します。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (毎回) ロールプレイプレゼンテーション (5, 10, 15週)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G19C35	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に＜参加型＞の授業です。講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりとマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかり学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとりよう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。 （授業目標） ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
--	--

授業計画	1 オリエンテーション 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1 2 Lecon 1 アルファベ アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2 3 Lecon 1 敬称・自己紹介 自己紹介「私は～です」 数字(1～10) 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う 4 Lecon 2 表現 色々な表現 「ありがとう」 「どういたしまして」 「どうぞ」 「お願いいたします」等 数字(11～20) 5 Lecon 2 冠詞・名詞 女性名詞、男性名詞、リエゾンの仕組み 曜日 数字復習(1～20) 6 Lecon 3 主語人称代名詞と動詞 動詞の活用 文章を作る je/tu/il/elle/nous/vous/ils/elles 数字(21～30) 7 Lecon 3 動詞 etre 不規則動詞の活用 自己紹介(国籍・職業) 数字(31～40) 8 Lecon 4 動詞 avoir avoirの様々な表現 場所を表す前置詞 数字復習(1～40) 9 Lecon 4 部分冠詞 表現「～がある」 語彙 数字(41～50) 10 Lecon 5 er 動詞 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(51～60) 11 Lecon 5 疑問文・否定文 「～ですか？」疑問文 「～ではありません」否定文 数字復習(1～60) 12 Lecon 5 ir 動詞 動詞：選ぶ・終わる
------	--

	<p>13 数字(61~70) Lecon 6 形容詞の性と数 男性形、女性形、複数形の作り方 数字(71~80)</p> <p>14 Lecon 6 命令文 「~しなさい」命令文 数字復習(1~80)</p> <p>15 Revisions 復習回 今まで学んだフランス語をつかってロールプレイ</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見ることができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。(毎日15分程度)</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く(30分程度)</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Nouveau Ken et Julie」(駿河台出版社) 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ロールプレイ</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：東祥子）			
ナンバリング：G29C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に<参加型>の授業です。講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかり学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとりよう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。</p> <p>(授業目標) ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。</p>
授業計画	<p>1 Lecon 16 色々な動詞 「動詞： 好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く 数字(20~30)</p> <p>2 Lecon 17 不規則動詞・指示形容詞 vouloir 「～したい」 pouvoir 「～できる」 prendre 「とる、食べる、乗る」 attendre 「待つ」 数字(30~40)</p> <p>3 Lecon 18 不規則動詞・前置詞+冠詞の縮約 aller 「～へ行く」 venir 「～から来る」 数字(40~50)</p> <p>4 Lecon 19 疑問副詞 疑問文「いつ」「どこで」「どのように」「いくら」「なぜ」？ 数字(50~60)</p> <p>5 Lecon 20 近い未来形・近い過去形・疑問代名詞 aller+動詞の原形 venir de+動詞の原形 「誰か」？ 数字(60~70)</p> <p>6 Lecon 21 不規則動詞・時を表す前置詞（句） faire 「する」 partir 「出発する」 数字(70~80)</p> <p>7 Lecon 22 時刻や天候など日常表現 「何時？」「…時」お天気は？ il faut 「～しなければならない」 数字(80~90)</p> <p>8 Lecon 23 疑問形容詞・不規則動詞 「どの～」 「どれ～」 devoir 「しなければならない」 lire 「読む」 connaitre 「知っている」 数字(90~100)</p> <p>9 Lecon 24 目的語代名詞 「…を～へ」</p> <p>10 Lecon 25 代名動詞・不規則動詞 voir 「見る」 savoir 「知る」</p> <p>11 Lecon 26 過去形 avoir 「～をした」</p> <p>12 Lecon 27 過去形 etre 「～をした」</p> <p>13 Lecon 28 復習回 revisions+supplement 料理・メニューを読み取ろう フランス料理の特殊な言い回し</p> <p>14 Lecon 29 復習回 Revisions+supplement</p>

	<p>カフェ・レストランでの注文 お店での買い物</p> <p>15 Lecon 30 復習回 Revisions + supplement 実用フランス語検定 5 級練習問題 仏検に挑戦しよう！</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定 5 級を習得するレベルまで達する。5 級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度）</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Ken et Julie1」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分かなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定 5 級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G19C37			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業は初めて中国語を勉強する方を対象とし、中国語の発音・声調から、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現を身に付ける。 (授業目標) ◎B：中国語の基礎文型と日常会話を学ぶ。 ○D：中国語の正しい発音、基礎的な語彙や文法を身につける。 E：「聞く・話す・読む・書く」の総合的な应用能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「1級」レベル到達を目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音)</p> <p>2 発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう 発音実習：ピンイン発音練習</p> <p>3 発音、文法 ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：1. 疑問代詞“何に？” 2. “是”構文 3. “吗”を使った疑問文 ペアワーク：自己紹介</p> <p>4 発音、文法 ピンイン：前鼻音n、後鼻音ngの区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：1. 疑問代詞“谁”と“哪” 2. 構造助詞“的” 3. 疑問助詞“呢” (1) ペアワーク：家族メンバーを紹介する</p> <p>5 発音練習、文法 発音練習：r化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” 3. 疑問代詞“几” ペアワーク：家族の状況を紹介する</p> <p>6 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか？”① ペアワーク：中国語が話せる</p> <p>7 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方 (1)：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文 (1) ペアワーク：お誕生日の表し方 (Q&A)</p> <p>8 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. 疑問代詞“多少” ペアワーク：一週間の計画 (Q&A)</p> <p>9 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. 動詞“在” 2. 疑問代詞“哪儿” 3. 疑問助詞“呢” ペアワーク：友達の仕事について紹介する</p> <p>10 “有”を使った文 発音：軽声の読み方 文法：1. “有”を使った文 2. 能願動詞“能” 3. “”を使った命令文 ペアワーク：座席の位置を紹介する</p> <p>11 時間の表し方 発音：軽声の機能 文法：1. 時間の表し方 2. 時間詞と状語 3. 名詞“前” ペアワーク：1日の生活習慣を話す</p> <p>12 主述述語文 発音：3音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 疑問代詞“怎么样” 2. 主述述語文 3. 能願動詞“会” (2) ペアワーク：天気状況の表し方 (Q&A)</p> <p>13 “在……？”進行形 発音：3音節の声調の組み合わせ② 文法：1. “在……呢”進行形 2. 電話番号の表し方 3. 語気助詞“吧” ペアワーク：電話番号の表し方 (Q&A)</p>

	<p>14 発生また完成を表す“了” 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 発生または完成を表す“了” 2. 名詞“后” 3. 副詞“都” グループワーク：1日の活動について話す (Q&A)</p> <p>15 “是……的”構文 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. “是……的”構文：強調する 2. 日にちの表し方 (2) ; 年、月、日、曜日 グループワーク：中国語の勉強経歴について会話を練習する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：日常会話に使われる基本的な会話を応用できる。 ○D：語彙力を増やし、初歩的な会話を聞き取り、概要及び詳細を理解できる。 E：日常生活で基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(毎日15分程度) 事後学習：語彙の暗記、本文を読み、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(45分程度)</p>
指導方法	<p>教科書に基づき授業を進める。各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 <フィードバックの方法> Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 D：定期試験を評価する E：課題の提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2018年3月1日 初版第2刷発行 定価：本体¥2,200 (+税)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する： 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学期末には中国語資格試験HSK1級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング	<p>会話実習：基本の挨拶と自己紹介(ペアワーク、グループワーク)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：史悦）			
ナンバリング：G29C38			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 中国語の発音、語彙、文法、表現などの各要素を丁寧に偏りなく学習し、全体として初級レベルの基礎をしっかりと身につける。中国語の勉強と同時に日本と異なる文化への理解を深め、視野を広げる。 （授業目標） ◎B：中国語を使って、場面に適したコミュニケーションをとることができる。 ○D：中国の文化と社会を知り、視野を広げることができる。 E：「HSK 中国漢語水平考試」（中国教育部認可の中国語国家試験）の「2級」レベル到達を目標とする。
授業計画	1 復習・概数の表し方 1. 中国語 I の復習と練習 2. 概数の表し方：几、多 ペアワーク：旅行についての会話 2 疑問文 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” グループワーク：基礎情報と運動状況について尋ねて会話をつくる 3 “的”を使った文 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文、副詞“真” ペアワーク：どれが誰の物か尋ねて、確認する 4 “是……的”構文 1. “是……的”構文：行為を強調する。 2. 時間を表す：……時 ペアワーク：中国語の勉強経歴について話す 5 副詞：“就”、“還” 1. 副詞：“就” “還” ① 2. “有点儿” グループワーク：ある物事に対する見方を尋ねる 6 原因表し関連詞 1. 疑問代詞“怎么？” 2. 原因表し関連詞 ペアワーク：“怎么”を用いて練習する 7 場所、時間、目的の距離を表す 1. 場所、時間、目的の距離を表す。 2. 副詞“就” “還” ② グループワーク：お誕生日のお祝いの仕方について尋ね、話す 8 兼語文、動詞の重ね型 1. 疑問文“……，好吗” 2. 兼語文 3. 動詞の重ね型 本文実習：兼語文を用いて練習する 4. ペアワーク：兼語文使って、お互いに練習する 9 結果補語、順序を表す方法 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” ペアワーク：自分の趣味について話す 10 否定式命令文 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” グループワーク：“对”を使って会話を作る 11 比較の言い方 1. 比べるを表す“比”構文① 2. 定語になる動詞 3. 助動詞“可能” ペアワーク：“比”の構文を用いての会話 12 状態補語 1. 状態補語 2. 比べるを表す“比”構文 グループワーク： ① “比”の構文

	<p>13 ②「A比B+V+得+adj」、 「A+V+得+比B+adj」の文型を使い、練習する 進行のAspect</p> <p>1. Aspect助詞“着” 2. 反語文“不是……??” 3. 介詞“往” ペアワーク：“着”を用いて写真の内容を述べる</p> <p>14 経験のAspect</p> <p>1. Aspect助詞“過” 2. 関連詞“……但是……” 3. 動量詞“次” ペアワーク：“過”を用いて自身が経験した事を話してみる</p> <p>15 動作の状態の表し方</p> <p>1. 動作の状態“要……了” 2. “都……了”構文 グループワーク：新年の計画について、話してみる</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B:様々な場面で実用的な会話ができる、中国語圏の人と基本的なコミュニケーションができる。 ○D:中国の文化と生活に関心を持ち、新たな視点から中国の文化を理解することができる。 E:学習内容の応用練習を通じ、基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(30分以上) 事後学習：語彙の暗記、本文を暗唱し、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(60分以上)</p>
指導方法	<p>原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 <フィードバックの方法> Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 D：定期試験で評価する。 E：課題の提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト2』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2015年8月1日 初版第1刷発行 定価：本体¥2,350 (+税)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する。 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。 ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する。 ・学年末には中国語資格試験HSK2級にもトライしましょう。
アクティブ・ラーニング	<p>実用的な会話に応用する。(ペアワーク、グループワーク)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：姜瑢嬉）			
ナンバリング：G19C39			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業概要】 韓国語の文字の読み書きを学習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持って簡単な日常会話や挨拶ができるように演習を重ねる。</p> <p>【授業目標】 A：学習目標に興味を持ち、積極的に参加することができる。 ◎ B：基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、学習問題を解くことができる。 ○ D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス及び文字と発音（基本母音） 授業内容と計画などを紹介 韓国語の自己紹介&挨拶の表現と練習（はじめまして。名前+と申します） 韓国語文字（ハングル）の紹介と基本母音字（10個）習得</p> <p>2 文字と発音（合成母音） 小テスト（授業前）：基本母音確認 基本母音字（10個）復習 合成母音字（11個）習得</p> <p>3 文字と発音（基本子音） 小テスト（授業前）：基本母音、合成母音確認 基本母音・合成母音の復習 基本子音の（14個）の習得</p> <p>4 文字と発音（濃音、終声音） 小テスト（授業前）：基本母音、合成母音、基本子音確認 基本母音・子音・合成母音の復習 濃音（5個）と終声音（バッチム）の習得</p> <p>5 文字と発音（総合練習、ハングル読み練習、自分の名前をハングルで書いてみること）、挨拶表現 小テスト（授業前）：ハングル読み書き総合確認 ハングルの読み書き総合練習・確認 挨拶表現紹介・教室用語紹介</p> <p>6 第1課 私は日本人です。 挨拶・自己紹介 助詞：～は 名詞+～です。名詞+～ですか？（丁寧語） 小テスト（授業後）</p> <p>7 第2課 日本人ではありません。 助詞：～が、否定形練習 否定の言い方（～ではありません） 名詞+～ではありません（丁寧語） 小テスト（授業後）</p> <p>8 第3課 それは何ですか？ 名詞+～です。名詞+～ですか（カジュアル&インフォーマル丁寧語） 名詞+～ではありません（カジュアル&インフォーマル丁寧語） 小テスト（授業後）</p> <p>9 第4課 約束があります。 存在の表現（丁寧語、カジュアル&インフォーマル丁寧語） あります。います。／ありません。いません。 ありますか。いますか。／ありませんか。いませんか。 小テスト（授業後）</p> <p>10 第5課 会社はどこにありますか。 位置を表す表現（上、下、前、後ろ…等） ～はどこにありますか？ ～にあります 小テスト（授業後）</p> <p>11 第6課 週末は何をしますか。 ～ます・です/ますか？ですか？（丁寧語、疑問語） ～して・くて 色んな動詞 Flipped learning:文法動画を事前に視聴し理解する。グループワークを通じ内容を確認する。 小テスト（授業後）</p> <p>12 第7課 そんなに遠くありません。</p>

	<p>否定形 (～ではありません・～くありません) 否定疑問形 (～ではありませんか?・～くありませんか?) ～から～まで 色んな形容詞 Flipped learning: 文法動画を事前に視聴し理解する。グループワークを通じ内容を確認する。 小テスト (授業後)</p> <p>13 第8課 いつ行きますか。 漢数字 (日にち、値段の言い方) ～ですね。 小テスト (授業後)</p> <p>14 第9課 釜山までどうやって行きますか。 ～ます・です (カジュアル&インフォーマル丁寧語) 学習した動詞と形容詞を活用し練習 Flipped learning: 文法動画を事前に視聴し理解する。グループワークを通じ内容を確認する。 小テスト (授業後)</p> <p>15 第10課 何時からですか。 固有数字 時間・年齢の言い方、色んな助数詞 (単位、～個、～杯、～枚など) 小テスト (授業後)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A : ハングルの読み書きや韓国語に抵抗なく勉強することができる。 ◎ B : 韓国語で挨拶や自己紹介など基本的な会話ができる。 C : 日にち・値段・番号・年齢などを読むことができる。 ○ D : 簡単な質問に答えることができる。 E : 自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 : 教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分)</p> <p>事後学習 : 教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイント、映像資料などを使用し説明する。 一方的な講義ではなくFlipped learning、グループワークを積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方 : 課題については返却の際に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A : 参加態度や授業貢献度を評価する。 B : 授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C : 小テスト、課題を評価する。 D : 定期試験を評価する。 E : 提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・貢献度20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加してください。 課題は必ず期限内提出してください。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、Flipped learning

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：姜瑢嬉）			
ナンバリング：G29C40			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>【授業概要】 教科書に沿って簡単な日常会話を学び、自分の意見や考えなどを伝えることができるように練習を重ねる。</p> <p>【授業目標】</p> <p>○A：グループワークをクラスで協働しながら、楽しく韓国語を身に付ける。 B：簡単な韓国語の質問に答えることができる。 C：正しい単語を使い答えることができる。 D：基本文型や文法が理解できる。 ◎E：語彙を増やして、自分の意見を表現できる。</p>
授業計画	<p>1 授業紹介 韓国語 1 復習(第1課～第10課) 動詞と形容詞の語彙復習 韓国語 2 シラバス紹介</p> <p>2 第11課 いつ日本へ来ましたか？ 過去形 ～でした。～ました。 ～でしたか。～ましたか。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。</p> <p>3 第11課 いつ日本へ来ましたか？ 授業前小テスト：過去形 11課会話文練習</p> <p>4 第12課 お名前は？ 敬語 敬語の特集例 名詞分の敬語 助詞の敬語 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 12課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>5 第13課 どちらへ行ったらっしゃいましたか？ 敬語の過去形 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 13課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>6 第14課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう？ 確認と逆接の表現 ～でしょう？～よね？ ～が、けれども Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 14課会話文練習 授業後小テスト 日韓文化の比較①</p> <p>7 第15課 温泉に行きたいです。 希望の表現 ～したいです。 第3者の希望 ～したっています。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 15課会話文練習 授業後小テスト</p> <p>8 第16課 プレゼントをかうのでたくさんお金を使います。 理由と原因の表現 ～ので 不規則活用 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認める。 16課会話文練習 授業後小テスト</p>

	9	第17課 結婚式に何を着ていけばいいですか？ 許可求めの表現 ～してもいいですか？・～すればいいですか？ 仮定・条件 ～ば、～たら Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 17課会話文練習 授業後小テスト 日韓文化の比較②
	1 0	第18課 食事でも一緒にしましょうか？ 勧誘の表現 ～しましょうか？・～ましょう。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 18課会話文練習 授業後小テスト
	1 1	第19課 写真をちょっと撮っていただけますか？ 依頼の表現 ～していただけますか？ ～てください。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 19課会話文練習 授業後小テスト
	1 2	第20課 自転車に乗ることができますか？ 能力・可能の表現 ～することができます。 ～することができません。 現在進行の表現 ～ています。 Flipped learning：文法動画を事前に視聴し理解する。授業中グループワークを通じ内容を確認する。 20課会話文練習 授業後小テスト
	1 3	総合復習① 第11課～第15課までの内容復習 会話練習 ロールプレイング
	1 4	総合復習② 第16課～第20課までの内容復習 会話練習 ロールプレイング
	1 5	活動授業 学習した韓国語を生かしレクリエーションゲーム、ロールプレイング 実習、プレゼンテーション
学習成果・到達目標・基準	○A：会話文をグループで練習しながら、楽しく覚えられる。 B：希望、可能の表現を使い話すことができる。 C：敬語や過去形が区別できる。 D：日本の文化と韓国の文化の比較ができる。 ◎E：韓国語で買い物、注文などができる。	
事前・事後学習	事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(10分) 音声資料を聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(5分) 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(10分) 音声資料を聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)	
指導方法	教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイントを使用し説明する。 一方的な講義ではなくグループワーク、レクリエーションゲーム等を積極的に取り入れる。 Flipped classroomを設け能動的な学習スタイルを通じ、学習効率を上げる。 フィードバックの仕方：音声課題については返却祭に個別対応する。 小テストを行い、学習状況を把握する。	
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。 定期試験50%、授業への参加態度・貢献度30%、課題・小テスト等20%	
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版、2018年5月1日新装版	
参考書		
履修上の注意	毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 欠席した場合はGoogle classroomの授業動画を視聴し、自習してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加しましょう。	
アクティブ・ラーニング	Flipped learning グループワーク	

